



新潟大学 医歯学総合病院2023

[2023年度 概要]





新潟大学医歯学総合病院

病院長

富田 善彦

病院長ごあいさつ

本院は前身の新潟病院の開設から140年余りと国内の病院の中でも随一の伝統を持っており、医育機関としては約120年前の官立新潟医学専門学校設立から医師をはじめとした医療人養成の中心となってきました。これは、本院で学び、知識、技術を習得した医師、看護師をはじめ、多くの医療人が第一線で活躍し、また、後輩を育成する側となることが連綿と続いてきたことを意味します。

現在、新潟県の3次医療圏を支える特定機能病院として種々の高度医療、3次救急医療を行っております。2019年からはじまった新型コロナウイルス感染症は、これまで何度も感染拡大を繰り返してきましたが、本院は、血液疾患や自己免疫疾患、臓器移植患者さんなど、難しい疾患をもつ感染患者さんや、人工呼吸器やECMOでの対応が必要な重症患者さんを中心に対応してきております。

また、先端医療を担う病院として、各領域での最新の医療を行っておりますが、高難度新規医療技術等管理センターを設置し、その安全性には一層の対策を講じております。がんゲノム医療の基幹病院の指定のもと、ゲノム医療部を新たに設置し、「遺伝医療センター」、「がんゲノム医療センター」、「ゲノム情報管理センター」の3つのセンターでプレジジョンメディシン(Precision Medicine; 高精度医療)の実践体制を整えております。また、新規薬剤の積極的な導入のための臨床治験の推進、新規医療技術、新規薬物治療の開発をすすめる臨床研究推進センターが稼働しており、同センターに隣接する産学の協業プラットフォーム、ライフイノベーションハブ内にコワーキングスペースを開設し、イノベーションを推進しております。

これら高度医療、先端医療の実践のみでなく、患者さん本位の安全で安心できる医療を提供することも私どもの大切な目標です。病気になれば、患者さんご本人だけでなく、ご家族も大変ご心配、ご不安になることと思いますが、そのような中でも、すこしでもスムーズに診療を受けていただけるように数々の改善を行ってまいりました。病院へのアクセス改善や患者総合サポートセンターによるワンストップでの受診、入院手続きのお手伝い、アネキターモールのコンビニエンスストア、レストラン、コーヒーショップ等の整備による利便性の向上を図っております。さらに2022年10月からは、小児患者さんとそのご家族のための宿泊施設、ドナルドマクドナルドハウスにいがたが病院隣接地にオープンいたしました。同ハウスは300名余りのボランティアさんが中心となり運営されますので、単に宿泊施設というだけでなく小児医療と地域社会をつなぐ新たな拠点になるものと期待しております。

地域社会と共に発展を図る新潟大学では、「新潟大学将来ビジョン2030」を策定し、病院においても、①国際マインドを持つ多種多様な医療人の育成、②新規医療技術の研究開発拠点の形成、③医療提供体制の充実による地域医療の課題解決を目標とし、取り組んで参ります。今後とも、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2023年度 概要

Outline

CONTENTS

1	沿革 History	6
2	機構図 Organization Chart	8
3	歴代病院長 Chronological List of Directors	10
4	職員 Staff	
1)	役職員 Administrators	11
2)	職員数 Number of Staff Members	12
5	病床数 Number of Beds	13
6	患者数・診療実績等 Number of Patients/Clinical Activities	
1)	患者数 Number of Patients	14
2)	手術件数 Number of Operations	16
3)	救急外来患者数・救命救急センター入院患者数 Number of Patients of Medical Emergency Center	17
4)	ドクターヘリ出動要請、出動件数 Activities of Air Ambulance	17
5)	総合周産期母子医療センター入院患者数 Number of In-patients of General Center for Perinatal, Maternal and Neonatal Medicine	17
6)	分娩件数 Number of Deliveries	17
7)	リハビリテーション件数 Number of Rehabilitation Cases	17
8)	臨床検査件数 Number of Clinical Examinations	18
7	病院開設承認等 Designation of Medical Institutions	
1)	病院開設承認等 Designation of Medical Institutions	20
2)	看護体系 Nursing System	20
3)	先進医療 Advanced Medical Service	20
4)	その他 Other	20
8	医療機関の指定状況 Legal Authorization of Medical Services	21
9	診療科 Clinical Department	22
10	中央診療施設等 Central Clinical Facilities	45
11	院内案内図 Floor Guide	56
12	建物配置図 Building Layout	58



公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、2020年5月8日付けで認定証(更新認定)が交付されました。



9 診療科 Clinical Department

【医科】

循環器内科	22
内分泌・代謝内科	22
血液内科	23
腎・膠原病内科	23
呼吸器・感染症内科	24
心療内科	24
消化器内科・肝胆膵内科	25
脳神経内科	25
腫瘍内科	26
精神科	26
小児科	27
消化器外科	27
乳腺・内分泌外科	28
心臓血管外科	28
呼吸器外科	29
整形外科	29
形成・美容外科	30
小児外科	30
脳神経外科	31
皮膚科	31
泌尿器科	32
眼科	32
耳鼻咽喉・頭頸部外科	33
産科婦人科	33

放射線治療科	34
放射線診断科	34
麻酔科	35
救急科	35
リハビリテーション科	36
病理診断科	36
医科総合診療科	37

【歯科】

口腔再建外科	38
顎顔面口腔外科	38
歯科放射線科	39
歯科麻酔科	39
小児歯科・障がい者歯科	40
矯正歯科	40
予防歯科	41
歯周病科	41
歯の診療科	42
冠・ブリッジ診療科	42
義歯診療科	43
口腔リハビリテーション科	43
歯科総合診療科	44

10 中央診療施設等 Central Clinical Facilities

検査部	45	腫瘍センター	51
手術部	45	移植医療支援センター	51
放射線部	45	魚沼地域医療教育センター	51
高次救命災害治療センター	45	臨床研究推進センター	52
造血・免疫細胞療法センター	46	ゲノム医療部:がんゲノム医療センター	52
物流センター	46	ゲノム医療部:ゲノム情報管理センター	52
総合リハビリテーションセンター	46	ゲノム医療部:遺伝医療センター	52
総合周産期母子医療センター	46	高度医療開発センター	53
病理部(医科担当)	47	小児がん医療センター	53
病理部(歯科担当)	47	新規医療技術等管理センター	53
集中治療部	47	薬剤部	53
血液浄化療法部	47	看護部	54
医療情報部	48	医療技術部	54
光学医療診療部	48		
輸血・再生・細胞治療センター	48		
患者総合サポートセンター	48		
医療安全管理部	49		
感染管理部	49		
総合研修部	49		
摂食嚥下機能回復部	49		
顎口腔インプラント治療部	50		
医療連携口腔管理治療部	50		
言語治療室	50		
お口の健康室	50		
栄養管理部	51		



本院の理念・目標

理 念

生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成します

目 標

- ・患者本位の安全で安心できる医療を提供します
- ・豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成します
- ・研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践します
- ・地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献します
- ・病院運営の適正化と効率化を促進します



医療者の職業倫理指針

1. 自らの責任を自覚し、品位を保ち、人格を高めるよう努めます
2. 継続学習の精神を保ち、つねに医学の知識と技術の習得に努めます
3. 守秘義務を遵守し、個人情報保護に努めます
4. 患者の人格を尊重し、信頼を得るよう努めます
5. お互いの専門性を尊重し、協力してチーム医療を実践します
6. 患者に公平に医療を提供します
7. 医療の公共性を重んじ、法規範を遵守します
8. 医療の進歩と発展に尽します



患者の権利

1. 個人の尊厳が尊重され、良質で公平な医療を受けることができます
2. 病状、治療、看護等について十分な説明と情報提供を受けることができます
3. 他の医療機関の医師の意見(セカンドオピニオン)を聞くことができます
4. 自分が受ける医療について自分の意思で決めることができます
5. プライバシーが尊重され、医療の過程で得られた個人情報は保護されます



小児患者の権利

- ・子どもは、安心できる環境のもとで、公平でより良い医療を受けることができます。
- ・子ども及びその家族は、病気のこと、治療の方法、看護について、十分な説明と情報提供を受けることができます。
- ・子ども及びその家族は、病気のこと、治療の方法について、自分の考えや気持ちを病院の医師及び看護師等に伝えることができます。
- ・子ども及びその家族は、受ける医療について、自分の意思で決めることができます。
- ・子ども及びその家族は、プライバシーが尊重され、医療の過程で得られた個人情報は保護されます。



患者の責務

1. 医療関係者と協同し、積極的に診療に参加していただく必要があります
2. 診療に必要な情報は、できるだけ正確に医療関係者にお伝え下さい
3. 他の患者さんや本院職員の権利を尊重し、迷惑行為や円滑な診療を妨げる行為[※]などは慎んで下さい
※暴言暴力、大声、喫煙、飲酒、医療費の未納、セクシュアル・ハラスメント、院内で記録した動画・画像・音声のインターネットやSNS上での公開、本院ならびに本院職員へのインターネットやSNS上での根拠のない誹謗中傷、ストーカー行為、宗教・政治活動、キャッチセールス等
4. 迷惑行為や円滑な診療が妨げられる行為が繰り返される場合には、診療をお断りしたり、院外退去を求めたりする場合があります



お願い

1. 本院は特定機能病院および大学附属病院であり、質の高い医療人を育成し、研究成果を反映した高度で先進的な医療を実現する使命があります。臨床実習や臨床研修、臨床研究や臨床試験に、ご理解ご協力をお願いします。
2. 患者の皆様や本院職員のプライバシーおよび個人情報を保護するため、許可なく病院内での撮影や録音を禁止しております。許可なく撮影した動画・画像や音声を、インターネット上に投稿することは、法律に抵触する可能性があります。また、インターネットやSNS上で、本院ならびに本院職員に根拠のない誹謗中傷が行われた場合には、しかるべき対処を行います。

明治	2年 5月	1869	施蘭藥院開設(同年9月廃止)	49年 4月	1974	医学部附属病院:材料部設置	
	3年 4月	1870	共立病院開設(明治6年2月廃止)	50年 10月	1975	医学部附属病院:理学療法部設置	
	6年 7月	1873	私立新潟病院仮開設(同年11月新築移転)	51年 4月	1976	医学部附属病院:事務部は3課制となり、総務課、管理課及び医事課設置	
	9年 4月	1876	県立新潟病院医学所と改称	5月	1976	医学部附属病院:看護部設置	
	12年 7月	1879	県立新潟医学学校附属病院と改称	52年 10月	1977	医学部附属病院:分娩部設置	
	16年 8月	1883	県立甲種新潟医学学校附属病院と改称(明治21年3月廃止)	53年 5月	1978	歯学部附属病院:生理機能室(院内措置)設置	
	21年 4月	1888	区立新潟病院設置	54年 4月	1979	医学部附属病院: 旭町地区中央機械室(院内措置)設置	
	22年 4月	1889	市立新潟病院と改称(市制施行)	10月	1979	歯学部附属病院:小児歯科設置(合計9診療科)	
	43年 6月	1910	官立新潟医学専門学校附属医院と改称	55年 4月	1980	医学部附属病院:救急部設置 歯学部附属病院:歯科放射線科設置(合計10診療科)	
	大正	11年 4月	1922	官立新潟医科大学附属医院と改称	56年 4月	1981	医学部附属病院:小児外科設置(合計18診療科)
		昭和	24年 5月	1949	新潟大学医学部附属病院と改称(新潟大学に包括)診療科(11科): 第一内科、第二内科、外科、 整形外科、産婦人科、 皮膚泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、 小児科、精神科、放射線科	57年 1月	1982
	28年 8月		1953	外科は第一外科と第二外科(脳神経外科)に分離独立(合計12診療科)	4月	1982	医学部附属病院:高密度無菌治療部設置
	31年 5月		1956	歯科設置(合計13診療科)	60年 4月	1985	歯学部附属病院:歯学部及び附属病院の事務部を改組統合し、総務課及び業務課設置
34年 4月	1959		皮膚泌尿器科は皮膚科と泌尿器科に分離独立(合計14診療科)	62年 5月	1987	医学部附属病院:病理部設置	
36年 4月	1961		事務は部制となり2課(管理課、業務課)設置	6月	1987	医学部附属病院:情報処理室(院内措置)設置	
37年 4月	1962		検査部及び手術部設置 薬局は薬剤部と改称	平成 元年 5月	1989	歯学部附属病院:歯科麻酔科設置(合計11診療科)	
38年 4月	1963		麻酔科及び脳神経外科(第二外科から移行)設置(合計16診療科)	3年 4月	1991	医学部附属病院:集中治療部設置	
40年 4月	1965		神経内科設置(合計17診療科)	4年 4月	1992	歯学部附属病院:特殊歯科総合治療部設置	
41年 4月	1966		第三内科設置(合計18診療科)	6年 12月	1994	医学部附属病院:特定機能病院の承認	
42年 5月	1967		内視鏡室(院内措置)設置	8年 5月	1996	医学部附属病院:形成外科設置(合計19診療科)	
6月	1967		医学部附属病院: 放射線部設置及び産婦人科は産科婦人科と改称 歯学部附属病院設置に伴い 歯科廃止(合計17診療科)	9年 4月	1997	医学部附属病院:血液浄化療法部及び 医療情報部(院内措置)設置、 病歴管理室(院内措置)及び 情報処理室(院内措置)を廃止	
平成				歯学部附属病院設置 診療科(3科):第一保存科、口腔外科、 第一補綴科	10年 4月	1998	医学部附属病院:医療情報部設置、 医療情報部(院内措置)を廃止
				歯学部附属病院:薬剤部及び看護部設置 臨床検査室(院内措置)、 手術室(院内措置)、 滅菌材料室(院内措置)、 歯科技工室(院内措置)設置	8月	1998	歯学部附属病院:病理検査室(院内措置)設置
	43年 4月	1968	歯学部附属病院:予防歯科及び矯正科設置(合計5診療科)	11月	1998	医学部附属病院:感染症管理室(院内措置)設置	
	44年 4月	1969	医学部附属病院:輸血部設置 歯学部附属病院:第二保存科及び第二補綴科設置(合計7診療科)	11年 2月	1999	医学部附属病院:治験センター(院内措置)設置	
	46年 4月	1971	歯学部附属病院:言語治療室(院内措置)設置	12年 4月	2000	医学部附属病院:周産母子センター設置、 分娩部を廃止	
	48年 4月	1973	歯学部附属病院:口腔外科は第一口腔外科と第二口腔外科に分離独立(合計8診療科)	13年 4月	2001	医学部附属病院:光学医療診療部設置、 内視鏡室(院内措置)を廃止 歯学部附属病院:総合診療部設置 診療科再編(4診療科): 口腔外科、口腔保健科、 歯の診療科、噛み合わせ診療科 11診療科廃止: 予防歯科、第一保存科、 第二保存科、第一口腔外科、 第二口腔外科、第一補綴科、 第二補綴科、矯正科、小児歯科、 歯科放射線科、歯科麻酔科 放射線室(院内措置)、 歯科衛生士室(院内措置)、 栄養管理室(院内措置)及び 医療情報部室(院内措置)設置	





5月	2001	医学部附属病院:総合診療部(院内措置)設置			第三内科は消化器内科と肝胆膵内科に分離独立
8月	2001	医学部附属病院:臨床試験部(院内措置)設置、 治験センター(院内措置)を廃止			第一外科は消化器外科と乳腺・内分泌外科に分離独立
14年 1月	2002	医学部附属病院:医療安全管理部(院内措置)設置			第二外科は心臓血管外科と呼吸器外科に分離独立
4月	2002	医学部附属病院:総合診療部設置、 総合診療部(院内措置)を廃止 臨床試験部設置、 臨床試験部(院内措置)を廃止			放射線科は放射線治療科と放射線診断科に分離独立
15年 4月	2003	医学部附属病院:生命科学医療センター設置、 輸血部及び臨床試験部を廃止 地域保健医療推進部設置 感染症管理室(院内措置)は、 感染管理部(院内措置)と改称 臨床研修センター(院内措置)設置			形成外科を形成・美容外科と改称 耳鼻咽喉科を耳鼻咽喉・頭頸部外科と改称
15年 10月	2003	歯学部附属病院:摂食・嚥下機能回復部(院内措置)及び顎関節治療部(院内措置)設置			診療科再編(4診療科) 口腔外科系歯科、矯正・小児系歯科、予防・保存系歯科、摂食機能・補綴系歯科
		新潟大学医歯学総合病院設置 (医学部附属病院と歯学部附属病院を統合) 診療科(23):	25年 6月	2013	救急科設置 (合計33診療科)
		第一内科、第二内科、第三内科、精神科、小児科、 第一外科、第二外科、整形外科、形成外科、 小児外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、 放射線科、産科婦人科、麻酔科、脳神経外科、 神経内科、口腔外科、口腔保健科、歯の診療科、 嚥み合わせ診療科	27年 6月	2015	魚沼地域医療教育センター設置
		中央診療施設(18):	28年 4月	2016	リハビリテーション科設置(合計34診療科)
		検査部、手術部、放射線部、救急部、 高密度無菌治療部、材料部、理学療法部、 周産母子センター、病理部、集中治療部、 血液浄化療法部、医療情報部、光学医療診療部、 医科総合診療部、生命科学医療センター、 地域保健医療推進部、歯科総合診療部、 特殊歯科総合治療部	12月		病理診断科設置(合計35診療科)
		院内措置施設(5):	29年 4月	2017	臨床研究推進センター設置 新規医療技術等管理センター設置
		医療安全管理部、感染管理部、臨床研修センター、 摂食・嚥下機能回復部、顎関節治療部	12月		患者総合サポートセンター設置 地域保健医療推進部を廃止
		薬剤部、看護部、診療支援部、事務部	30年 1月	2018	ゲノム医療センター設置 遺伝医療支援センター設置
17年 9月	2005	物流センター設置、材料部を廃止	3月		戦略企画室設置
18年 4月	2006	中央診療施設設置(8): 総合リハビリテーションセンター、医療安全管理部、 感染管理部、総合臨床研修センター、 摂食・嚥下機能回復部、顎関節治療部、 インプラント治療部、栄養管理部	31年 2月	2019	高度医療開発センター設置 医療人材育成センター設置 小児がん医療センター設置 生命科学医療センターを廃止 輸血・再生・細胞治療センターを設置 神経内科を脳神経内科と改称
		中央診療施設廃止(2): 理学療法部、特殊歯科総合治療部	令和 2年 4月	2020	顎関節治療部とインプラント治療部を統合し、 顎口腔インプラント治療部設置 医療連携口腔管理治療部設置
		院内措置施設廃止(5): 医療安全管理部、感染管理部、臨床研修センター、 摂食・嚥下機能回復部、顎関節治療部	3年 4月	2021	中央診療施設等廃止(8) 医科総合診療部、歯科総合診療部、 総合臨床研修センター、医師キャリア支援センター、 不整脈センター、ゲノム医療センター、 遺伝医療支援センター、医療人材育成センター 診療科設置(2) 医科総合診療科、歯科総合診療科 中央診療施設等設置(2) ゲノム医療部、総合研修部
19年 4月	2007	腫瘍センター設置			
20年 11月	2008	医師キャリア支援センター設置			
21年 10月	2009	高次救命災害治療センター設置、救急部廃止			
22年 4月	2010	総合周産期母子医療センター設置、 周産母子センター廃止			
23年 4月	2011	移植医療支援センター及び不整脈センター設置	4年 4月	2022	戦略企画室を廃止 高密度無菌治療部を造血・免疫細胞療法 センターと改称
24年 11月	2012	腫瘍内科設置	10月	2022	ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた開所
		第一内科は循環器内科と内分泌・代謝内科 と血液内科に分離独立	5年 3月	2023	ベッドコントロールセンター設置
		第二内科は腎・膠原病内科と呼吸器・感染症 内科と心療内科に分離独立			

病院長

副病院長

病院長特別補佐

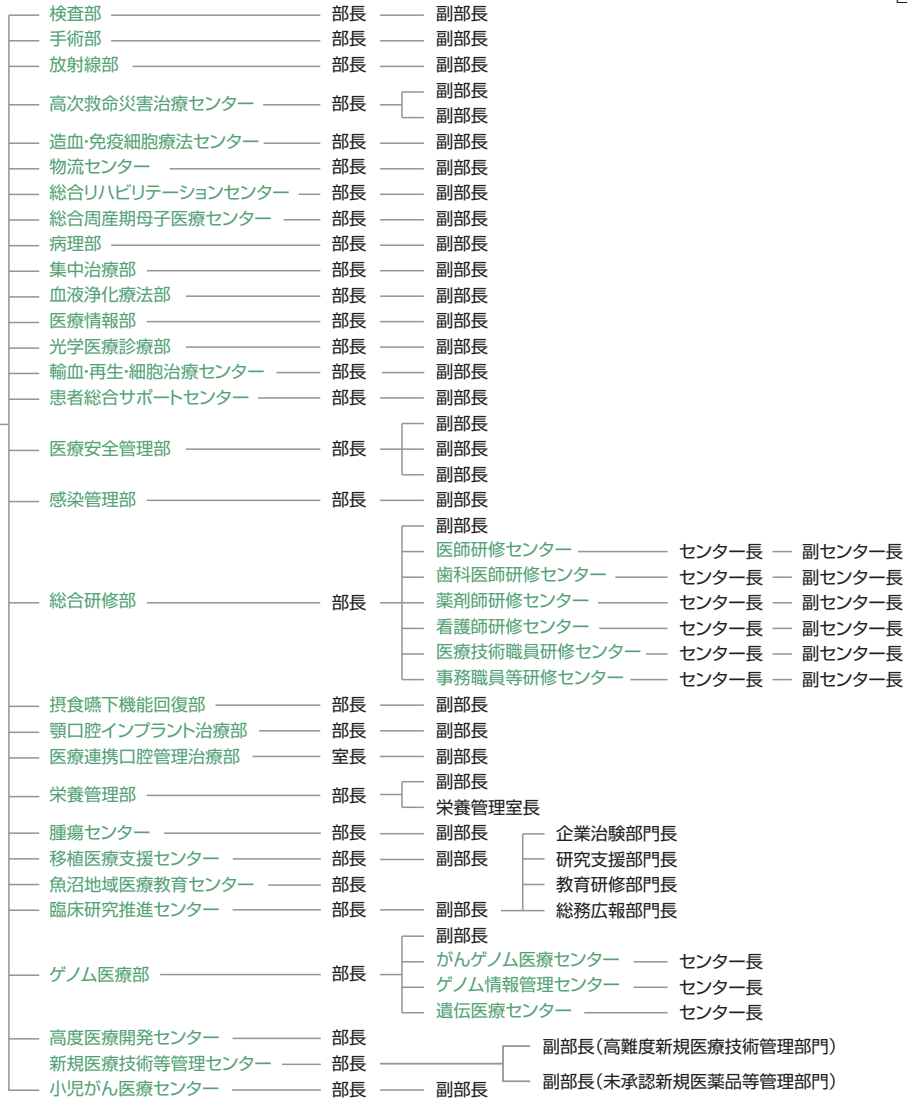
病院長補佐

ベッドコントロールセンター

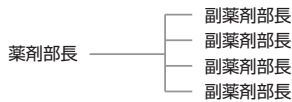
診療科

循環器内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
内分泌・代謝内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
血液内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
腎・膠原病内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
呼吸器・感染症内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
心療内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
消化器内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
肝胆膵内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
脳神経内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
腫瘍内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
精神科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
小児科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
消化器外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
乳腺・内分泌外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
心臓血管外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
呼吸器外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
整形外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
形成・美容外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
小児外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
脳神経外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
皮膚科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
泌尿器科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
眼科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
耳鼻咽喉・頭頸部外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
産科婦人科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
放射線治療科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
放射線診断科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
麻酔科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長		
救急科	科長	総括医長・病棟医長		
リハビリテーション科	科長			
病理診断科	科長			
医科総合診療科	科長	総括医長		
口腔外科系歯科	科長	総括医長・病棟医長		
		口腔再建外科	室長	副室長
		顎顔面口腔外科	室長	副室長
		歯科放射線科	室長	副室長
矯正・小児系歯科	科長	総括医長		
		小児歯科・障がい者歯科	室長	副室長
		矯正歯科	室長	副室長
予防・保存系歯科	科長	総括医長		
		予防歯科	室長	副室長
		歯周病科	室長	副室長
摂食機能・補綴系歯科	科長	総括医長		
		冠・ブリッジ診療科	室長	副室長
		義歯診療科	室長	副室長
歯科総合診療科	科長	総括医長		
		口腔リハビリテーション科	室長	副室長
		言語治療室	室長	副室長
		お口の健康室	室長	副室長

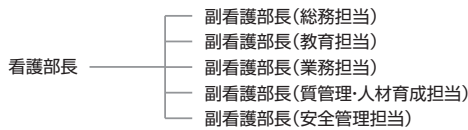
中央診療施設



薬剤部



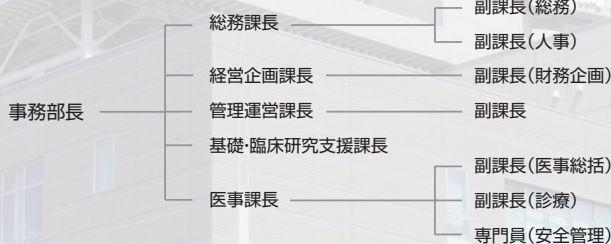
看護部



医療技術部



事務部





医歯学総合病院長

Director, Medical & Dental Hospital

- 下條 文武
GEIYO Fumitake
平成15年10月1日～平成19年3月31日
October 1, 2003 - March 31, 2007
- 畠山 勝義
HATAKEYAMA Katsuyoshi
平成19年4月1日～平成22年3月31日
April 1, 2007 - March 31, 2010
- 内山 聖
UCHIYAMA Makoto
平成22年4月1日～平成25年3月31日
April 1, 2010 - March 31, 2013
- 鈴木 榮一
SUZUKI Eiichi
平成25年4月1日～平成31年3月31日
April 1, 2013 - March 31, 2019
- 富田 善彦
TOMITA Yoshihiko
平成31年4月1日～現在
April 1, 2019 - Present

医学部附属病院長

Director, Medical Hospital

- 富田 忠太郎
TOMITA Chutaro
明治43年6月～明治44年4月
June 1910 - April 1911
- 池田 廉一郎
IKEDA Renichiro
明治44年5月～大正3年9月
May 1911 - September 1914
- 沢田 敬義
SAWADA Keigi
大正3年9月～大正14年3月
September 1914 - March 1925
- 岩川 克輝
IWAKAWA Katsuteru
大正14年3月～昭和2年3月
March 1925 - March 1927
- 富永 忠司
TOMINAGA Chuji
昭和2年3月～昭和6年2月
March 1927 - February 1931
- 本島 一郎
MOTOJIMA Ichiro
昭和6年2月～昭和11年7月
February 1931 - July 1936
- 中村 隆治
NAKAMURA Ryuji
昭和11年7月～昭和15年10月
July 1936 - October 1940
- 熊谷 直樹
KUMAGAI Naoki
昭和15年10月～昭和17年10月
October 1940 - October 1942
- 橋本 喬
HASHIMOTO Takashi
昭和17年10月～昭和19年9月
October 1942 - September 1944
- 鳥居 恵二
TORII Keiji
昭和19年9月9日～昭和21年9月11日
September 9, 1944 - September 11, 1946
- 柴田 経一郎
SHIBATA Tsuneichiro
昭和21年9月11日～昭和22年12月10日
September 11, 1946 - December 10, 1947
- 和久井 豊一
WAKUI Toyokazu
昭和22年12月10日～昭和24年7月31日
December 10, 1947 - July 31, 1949
- 天児 民和
AMAKO Tamikazu
昭和24年7月31日～昭和25年10月14日
July 31, 1949 - October 14, 1950
- 中山 栄之助
NAKAYAMA Einosuke
昭和25年10月15日～昭和27年7月31日
October 15, 1950 - July 31, 1952
- 野崎 秀英
NOZAKI Shuei
昭和27年8月1日～昭和30年8月31日
August 1, 1952 - August 31, 1955
- 河野 左宙
KONO Sachu
昭和30年9月1日～昭和32年8月31日
September 1, 1955 - August 31, 1957
- 中山 栄之助
NAKAYAMA Einosuke
昭和32年9月1日～昭和34年8月31日
September 1, 1957 - August 31, 1959
- 上村 忠雄
KAMIMURA Tadao
昭和34年9月1日～昭和38年8月31日
September 1, 1959 - August 31, 1963

- 堺 哲郎
SAKAI Tetsuro
昭和38年9月1日～昭和40年8月31日
September 1, 1963 - August 31, 1965
- 田中 宏
TANAKA Hiroshi
昭和40年9月1日～昭和41年2月17日
September 1, 1965 - February 17, 1966
- 堺 哲郎 (事務取扱)
SAKAI Tetsuro
昭和41年2月17日～昭和41年3月31日
February 17, 1966 - March 31, 1966
- 三国 政吉
MIKUNI Masakichi
昭和41年4月1日～昭和42年9月30日
April 1, 1966 - September 30, 1967
- 三国 政吉 (事務取扱)
MIKUNI Masakichi
昭和42年10月1日～昭和42年10月31日
October 1, 1967 - October 31, 1967
- 小林 収
KOBAYASHI Osamu
昭和42年11月1日～昭和44年2月28日
November 1, 1967 - February 28, 1969
- 河野 左宙 (事務取扱)
KONO Sachu
昭和44年3月1日～昭和44年8月14日
March 1, 1969 - August 14, 1969
- 浅野 猷一
ASANO Kenichi
昭和44年8月15日～昭和45年11月15日
August 15, 1969 - November 15, 1970
- 松岡 松三 (事務取扱)
MATSUOKA Matsuzo
昭和45年11月16日～昭和46年4月15日
November 16, 1970 - April 15, 1971
- 松岡 松三
MATSUOKA Matsuzo
昭和46年4月16日～昭和48年4月15日
April 16, 1971 - April 15, 1973
- 猪 初男
INO Hatsuo
昭和48年4月16日～昭和51年6月15日
April 16, 1973 - June 15, 1976
- 沢 政一
SAWA Masaichi
昭和51年6月16日～昭和55年6月15日
June 16, 1976 - June 15, 1980
- 田島 達也
TAJIMA Tatsuya
昭和55年6月16日～昭和59年6月15日
June 16, 1980 - June 15, 1984
- 市田 文弘
ICHIDA Fumihiko
昭和59年6月16日～昭和61年6月15日
June 16, 1984 - June 15, 1986
- 武藤 輝一
MUTO Terukazu
昭和61年6月16日～昭和63年6月15日
June 16, 1986 - June 15, 1988
- 佐藤 良夫
SATO Yoshio
昭和63年6月16日～平成2年6月15日
June 16, 1988 - June 15, 1990
- 柴田 昭
SHIBATA Akira
平成2年6月16日～平成4年1月31日
June 16, 1990 - January 31, 1992
- 柴田 昭 (事務取扱)
SHIBATA Akira
平成4年2月1日～平成4年2月29日
February 1, 1992 - February 29, 1992
- 中野 雄一
NAKANO Yuichi
平成4年3月1日～平成6年2月28日
March 1, 1992 - February 28, 1994
- 江口 昭治
EGUCHI Shoji
平成6年3月1日～平成8年2月29日
March 1, 1994 - February 29, 1996
- 岩渕 眞
IWAFUCHI Makoto
平成8年3月1日～平成10年1月31日
March 1, 1996 - January 31, 1998
- 岩渕 眞 (事務取扱)
IWAFUCHI Makoto
平成10年2月1日～平成10年2月28日
February 1, 1998 - February 28, 1998
- 酒井 邦夫
SAKAI Kunio
平成10年3月1日～平成12年2月29日
March 1, 1998 - February 29, 2000
- 朝倉 均
ASAKURA Hitoshi
平成12年3月1日～平成14年2月28日
March 1, 2000 - February 28, 2002
- 下條 文武
GEIYO Fumitake
平成14年3月1日～平成15年9月30日
March 1, 2002 - September 30, 2003

歯学部附属病院長

Director, Dental Hospital

- 山内 峻呉
YAMAUCHI Shungo
昭和42年6月1日～昭和42年7月31日
June 1, 1967 - July 31, 1967
- 常葉 信雄
TOKOHA Nobuo
昭和42年8月1日～昭和44年7月31日
August 1, 1967 - July 31, 1969
- 細田 裕康
HOSODA Hiroyasu
昭和44年8月1日～昭和46年7月31日
August 1, 1969 - July 31, 1971
- 福原 達郎
FUKUHARA Tatsuro
昭和46年8月1日～昭和48年7月31日
August 1, 1971 - July 31, 1973
- 小林 幸男
KOBAYASHI Yukio
昭和48年8月1日～昭和50年4月1日
August 1, 1973 - April 1, 1975
- 堀井 欣一
HORII Kinichi
昭和50年4月2日～昭和54年4月1日
April 2, 1975 - April 1, 1979
- 細田 裕康
HOSODA Hiroyasu
昭和54年4月2日～昭和56年4月1日
April 2, 1979 - April 1, 1981
- 花田 晃治
HANADA Koji
昭和56年4月2日～昭和60年4月1日
April 2, 1981 - April 1, 1985
- 大橋 靖
OHASHI Yasushi
昭和60年4月2日～平成元年4月1日
April 2, 1985 - April 1, 1989
- 原 耕二
HARA Koji
平成元年4月2日～平成7年4月1日
April 2, 1989 - April 1, 1995
- 野田 忠
NODA Tadashi
平成7年4月2日～平成11年4月1日
April 2, 1995 - April 1, 1999
- 河野 正司
KONO Shoji
平成11年4月2日～平成15年4月1日
April 1, 1999 - April 1, 2003
- 宮崎 秀夫
MIYAZAKI Hideo
平成15年4月2日～平成15年9月30日
April 2, 2003 - September 30, 2003



1 役員

Administrators

2023年4月1日現在

病院長	Director, University Medical and Dental Hospital
教授 富田 善彦	Prof. TOMITA Yoshihiko

副病院長	Vice-Directors of Hospital
-------------	----------------------------

■ 総括 Executive Vice Director	教授 土田 正則 Prof. TSUCHIDA Masanori
■ 歯科総括 Executive Vice Director for Dentistry	教授 多部田 康一 Prof. TABETA Koichi
■ 企画戦略 (研究・医療連携) Planning and Strategy for Research and Medical Cooperation	教授 猪又 孝元 Prof. INOMATA Takayuki
■ 企画戦略 (医科歯科連携) Planning and Strategy for Medical and Dental Cooperation	教授 大内 章嗣 Prof. OUCHI Akitasugu
■ 診療・病院機能 Medical Treatment and Hospital Quality	教授 若井 俊文 Prof. WAKAI Toshifumi
■ 医療安全 Patient Safety	教授 鳥谷部 真一 Prof. TOYABE Shinichi
■ 感染管理・教育 Infection Management and Education	教授 菊地 利明 Prof. KIKUCHI Toshiaki
■ 看護 (地域連携) Nursing and Community Cooperation	白砂 由美子 SHIRASUNA Yumiko
■ 総務・財務 General Affairs and Finance	前島 一実 MAESHIMA Kazumi

病院長特別補佐	Special Advisor to the Director
教授 小野寺 理	Prof. ONODERA Osamu

病院長補佐	Deputy Director
■ 病院機能強化 (医科) Quality Improvement of Medicine	教授 堀井 新 Prof. HORII Arata
■ 病院機能強化 (歯科) Quality Improvement of Dentistry	教授 瀬尾 憲司 Prof. SEO Kenji
■ 医療連携全般 Medical Cooperation	教授 川島 寛之 Prof. KAWASHIMA Hiroyuki

診療科	Medical Examination and Treatment Department
■ 循環器内科 Cardiovascular Medicine	科長 教授 猪又 孝元 Prof. INOMATA Takayuki
■ 内分泌・代謝内科 Endocrinology and Metabolism	科長 教授 曽根 博仁 Prof. SONE Hirohito
■ 血液内科 Hematology	科長 准教授 瀧澤 淳 Assoc. Prof. TAKIZAWA Jun
■ 腎・膠原病内科 Nephrology and Rheumatology	科長 教授 成田 一衛 Prof. NARITA Ichiei
■ 呼吸器・感染症内科 Respiratory Medicine and Infectious Disease	科長 教授 菊地 利明 Prof. KIKUCHI Toshiaki
■ 心療内科 Psychosomatic Medicine	科長 教授 菊地 利明 Prof. KIKUCHI Toshiaki
■ 消化器内科 Gastroenterology	科長 教授 寺井 崇二 Prof. TERAI Shuji
■ 肝胆膵内科 Hepato-biliary-pancreatology	科長 教授 寺井 崇二 Prof. TERAI Shuji
■ 脳神経内科 Neurology	科長 教授 小野寺 理 Prof. ONODERA Osamu
■ 腫瘍内科 Medical Oncology	科長 教授 西條 康夫 Prof. SAJIYO Yasuo
■ 精神科 Psychiatry	科長 教授 染矢 俊幸 Prof. SOMIYA Toshiyuki
■ 小児科 Pediatrics	科長 教授 齋藤 昭彦 Prof. SAITO Akihiko
■ 消化器外科 Digestive Surgery	科長 教授 若井 俊文 Prof. WAKAI Toshifumi
■ 乳腺・内分泌外科 Breast and Endocrine Surgery	科長 教授 若井 俊文 Prof. WAKAI Toshifumi

■ 心臓血管外科 Cardiovascular Surgery	科長 准教授 白石 修一 Assoc. Prof. SHIRAIISHI Shuichi
■ 呼吸器外科 Thoracic Surgery	科長 教授 土田 正則 Prof. TSUCHIDA Masanori
■ 整形外科 Orthopedic Surgery	科長 教授 川島 寛之 Prof. KAWASHIMA Hiroyuki
■ 形成・美容外科 Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery	科長 教授 松田 健 Prof. MATSUDA Ken
■ 小児外科 Pediatric Surgery	科長 教授 木下 義晶 Prof. KINOSHITA Yoshiaki
■ 脳神経外科 Neurosurgery	科長 教授 大石 誠 Prof. OISHI Makoto
■ 皮膚科 Dermatology	科長 教授 阿部 理一郎 Prof. ABE Riichiro
■ 泌尿器科 Urology	科長 教授 富田 善彦 Prof. TOMITA Yoshihiko
■ 眼科 Ophthalmology	科長 教授 福地 健郎 Prof. FUKUCHI Takeo
■ 耳鼻咽喉・頭頸部外科 Otolaryngology, Head and Neck Surgery	科長 教授 堀井 新 Prof. HORII Arata
■ 産科婦人科 Obstetrics and Gynecology	科長 教授 吉原 弘祐 Prof. YOSHIHARA Kosuke
■ 放射線治療科 Radiation Oncology	科長 教授 石川 浩志 Prof. ISHIKAWA Hiroyuki
■ 放射線診断科 Diagnostic Radiology	科長 教授 石川 浩志 Prof. ISHIKAWA Hiroyuki
■ 麻酔科 Anesthesiology	科長 教授 馬場 洋 Prof. BABA Hiroshi
■ 救急科 Acute Medicine	科長 教授 西山 慶 Prof. NISHIYAMA Kai
■ リハビリテーション科 Rehabilitation Medicine	科長 教授 川島 寛之 Prof. KAWASHIMA Hiroyuki
■ 病理診断科 Diagnostic Pathology	科長 准教授 梅津 哉 Assoc. Prof. UMEZU Hajime
■ 医科総合診療科 General Medicine	科長 准教授 長谷川 隆志 Assoc. Prof. HASEGAWA Takashi
■ 口腔外科系歯科 Oral Surgery, Radiology and Anesthesia	科長 教授 瀬尾 憲司 Prof. SEO Kenji
■ 矯正・小児系歯科 Orthodontics and Pedodontics	科長 教授 早崎 治明 Prof. HAYASAKI Haruki
■ 予防・保存系歯科 Preventive and Conservative Dentistry	科長 教授 小川 祐司 Prof. OGAWA Hiroshi
■ 摂食機能・補綴系歯科 Prosthodontics and Oral Function	科長 教授 井上 誠 Prof. INOUE Makoto
■ 歯科総合診療科 General Dentistry and Clinical Education Unit	科長 教授 藤井 規孝 Prof. FUJII Noritaka

中央診療施設	Clinical and Laboratory Facilities
■ 検査部 Medical Laboratory Division	部長 教授 菊地 利明 Prof. KIKUCHI Toshiaki
■ 手術部 Operation Center	部長 教授 馬場 洋 Prof. BABA Hiroshi
■ 放射線部 Department of Radiology	部長 教授 石川 浩志 Prof. ISHIKAWA Hiroyuki
■ 高次救命災害治療センター Advanced Disaster Medical & Emergency Critical Care Center	部長 教授 西山 慶 Prof. NISHIYAMA Kai
■ 造血・免疫細胞療法センター Department of Hematopoietic Cell Therapy	部長 准教授 増子 正義 Assoc. Prof. MASUKO Masayoshi
■ 物流センター Distribution Center	部長 教授 川島 寛之 Prof. KAWASHIMA Hiroyuki
■ 総合リハビリテーションセンター General Rehabilitation Center	部長 教授 川島 寛之 Prof. KAWASHIMA Hiroyuki
■ 総合周産期母子医療センター General Center for Perinatal, Maternal and Neonatal Medicine	部長 教授 西島 浩二 Prof. NISHIJIMA Koji
■ 病理部 Pathological Division	部長 准教授 梅津 哉 Assoc. Prof. UMEZU Hajime
■ 集中治療部 Intensive Care Unit	部長 教授 西山 慶 Prof. NISHIYAMA Kai
■ 血液浄化療法部 Blood Purification Center	部長 教授 成田 一衛 Prof. NARITA Ichiei
■ 医療情報部 Department of Medical Informatic	部長 教授 赤澤 宏平 Prof. AKAZAWA Kahei

■ 光学医療診療部 Department of Endoscopy	部長 教授 寺井 崇二 Prof. TERAI Shuji
■ 輸血・再生・細胞治療センター Center For Transfusion And Cell Therapy	部長 教授 阿部 理一郎 Prof. ABE Riichiro
■ 患者総合サポートセンター Patient Support Center	部長 教授 猪又 孝元 Prof. INOMATA Takayuki
■ 医療安全管理部 Department of Patient Safety	部長 教授 鳥谷部 真一 Prof. TOYABE Shinichi
■ 感染管理部 Division of Infection Control and Prevention	部長 教授 菊地 利明 Prof. KIKUCHI Toshiaki
■ 総合研修部 Department of Education and Training	部長 教授 堀井 新 Prof. HORII Arata
■ 摂食嚥下機能回復部 Unit of Dysphagia Rehabilitation	部長 教授 井上 誠 Prof. INOUE Makoto
■ 医療連携口腔管理治療部 Oral Management Clinic for Medical Cooperation	部長 教授 小林 正治 Prof. KOBAYASHI Tadaharu
■ 顎口腔インプラント治療部 Oral Implant and Temporomandibular Joint Clinic	部長 教授 魚島 勝美 Prof. UOSHIMA Katsumi
■ 栄養管理部 Department of Nutritional Management	部長 教授 寺井 崇二 Prof. TERAI Shuji
■ 腫瘍センター Center for Clinical Oncology	部長 教授 若井 俊文 Prof. WAKAI Toshifumi
■ 移植医療支援センター Transplantation Support Service Center	部長 准教授 齋藤 和英 Assoc. Prof. SAITO Kazuhide
■ 魚沼地域医療教育センター Uonuma Institute of Community Medicine	部長 特任教授 高田 俊範 Prof. TAKADA Toshinori
■ 臨床研究推進センター Clinical and Translational Research Center	部長 教授 富田 善彦 Prof. TOMITA Yoshihiko
■ ゲノム医療部 Department of genome medicine	部長 教授 富田 善彦 Prof. TOMITA Yoshihiko
■ 高度医療開発センター Advanced Clinical Research Center	部長 教授 土田 正則 Prof. TSUCHIDA Masanori
■ 新規医療技術等管理センター Management Center for New Medical Skills and Treatment	センター長 教授 富田 善彦 Prof. TOMITA Yoshihiko
■ 小児がん医療センター Childhood Cancer Medical Center	部長 教授 木下 義晶 Prof. KINOSHITA Yoshiaki

薬剤部	Division of Pharmacy
■ 薬剤部長	教授 外山 聡 Prof. TOYAMA Akira

看護部	Department of Nursing
■ 看護部長	白砂 由美子 SHIRASUNA Yumiko

医療技術部	Department of Medical Technology
■ 医療技術部長	金澤 勉 KANAZAWA Tsutomu

事務部	Administration Department
■ 事務部長	前島 一実 MAESHIMA Kazumi
■ 総務課長	島田 彰 SHIMADA Akira
■ 経営企画課長	小林 晴男 KOBAYASHI Haruo
■ 管理運営課長	石井 薫 ISHII Kaoru
■ 基礎・臨床研究支援課長	小黒 健児 OGURO Kenji
■ 医事課長	長谷川 亨 HASEGAWA Toru

2 職員数

Number of Staff Members

(2023年5月1日現在)

区分 Divisions		常勤職員 Regular Staffs	非常勤職員等 Part-time Service Staffs
病院長 Director		1	
教員 Professors	教授 Professor	49 (45)	
	准教授 Associate Professor	53 (38)	
	講師 Lecturer	55 (11)	
	助教 Assistant Professor	219 (61)	
計 Total		376 (155)	
特任教員等 Specially Appointed Professors. etc		※196	※29 < 29 >
医員・レジデント Medical Doctors / Dental Doctors / Residents			366 < 174 >
臨床研修医・臨床研修歯科医 Clinical Training Medics / Clinical Training Dentists			54
医療技術職員 Medical Technician		189	71 < 24 >
看護師等 Nurses.etc		832	29 < 29 >
研究支援者等 Research Supporters			9 < 9 >
事務系職員 Clerical Staffs		96	81 < 70 >
合計 Sum Total		1,690 (155)	639 < 335 >

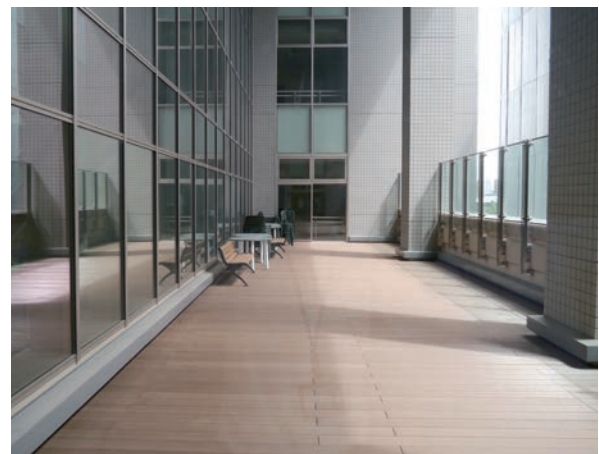
()内は、危機管理本部、医歯学系及び脳研究所の診療科等担当の教員数で内数

< >内は、パートタイム職員で内数

※には、医歯学系及び脳研究所の診療科等担当の特任教員を含む



外来診療棟4階「歯科外来」



外来診療棟2階「バルコニー」

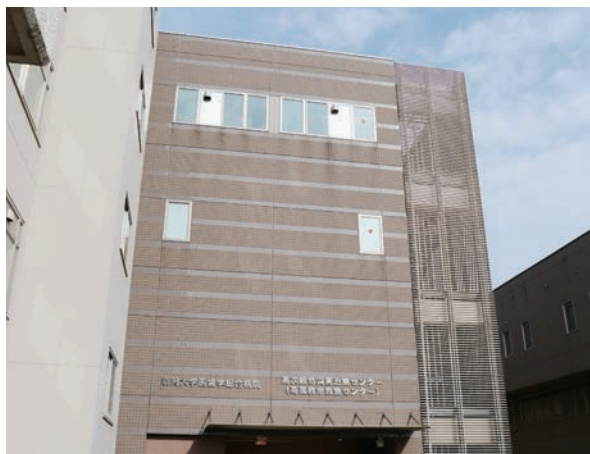


(2023年5月1日現在)

		診療科名等 Clinical Divisions	特別室 Special Room	普通室 Regular Room	計 Total
西病棟 West Ward	11階	腎・膠原病内科、血液・内分泌・代謝内科 Nephrology and Rheumatology/Hematology/Endocrinology and Metabolism	7	41	48
	10階	循環器内科、呼吸器・感染症内科 Cardiovascular Medicine/Respiratory Medicine and Infectious Disease	9	39	48
	9階	皮膚科、脳神経内科、脳神経外科 Dermatology/Neurology/Neurosurgery	9	38	47
	8階	消化器外科、泌尿器科 Digestive Surgery/Urology	8	40	48
	7階	整形外科、救急科 Orthopedic Surgery/Acute Medicine	8	40	48
	6階	小児科、小児外科、院内学級（※1） Pediatrics/Pediatric Surgery/Class Hospital	7	37	44
	5階	産科、総合周産期母子医療センター Obstetrics/General Center for Perinatal/Maternal and Neonatal Medicine	4	36	40
	4階	婦人科、血液内科、乳腺・内分泌外科、放射線科 Gynecology/Hematology/Breast and Endocrine Surgery/Radiology	6	38	44
東病棟 East Ward	11階	消化器内科、呼吸器・感染症内科、新型コロナウイルス感染症病床 Gastroenterology/Respiratory Medicine and Infectious Disease/COVID-19	7	41	48
	10階	心臓血管外科、呼吸器外科、循環器内科 Cardiovascular Surgery/Thoracic Surgery/Cardiovascular Medicine	8	40	48
	9階	脳神経外科、内分泌・代謝内科、脳神経内科、麻酔科 Neurosurgery/Endocrinology and Metabolism/Neurology/Anesthesiology	6	41	47
	8階	眼科、腎・膠原病内科 Ophthalmology/Nephrology and Rheumatology	10	37	47
	7階	耳鼻咽喉・頭頸部外科、整形外科、形成外科 Otolaryngology/Head and Neck Surgery/Orthopedic Surgery/Plastic/Reconstructive and Aesthetic Surgery	8	39	47
	6階	(休床) (Temporarily Closed)	6	32	38
	5階	精神科 Psychiatry		64	64
	4階	泌尿器科、放射線科、消化器内科、皮膚科 Urology/Radiology/Gastroenterology/Dermatology	5	40	45
	3階	歯科、BCR、救急科、呼吸器・感染症内科、腫瘍内科、消化器外科 Dentistry/BCR/Acute Medicine/Respiratory Medicine and Infectious Disease/Medical Oncology/Digestive Surgery	3	41	44
中央診療棟 Central Examination Building	高次救命災害治療センター（集中治療部含む） Advanced Disaster Medical & Emergency Critical Care Center (Include The Intensive Care Unit)		32	32	
		計 Total	111	716	827

※1 小児科・小児外科の他、各科小児用病床（形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、歯科）あり。

※2 今後、病床再編に伴い、変更となる可能性あり。



高次救命災害治療センター



総合周産期母子医療センター

6

患者数・診療実績等

1 患者数

Number of Patients

■ 医科 Medical

診療科 Clinical Divisions	入院 In-patients		外来 Out-patients	
	延患者数 Total Number of Patients	一日平均患者数 Per day	延患者数 Total Number of Patients	一日平均患者数 Per day
循環器内科	14,556	39.9	18,982	78.1
内分泌・代謝内科	1,928	5.3	20,696	85.2
血液内科	11,148	30.5	7,700	31.7
腎・膠原病内科	9,397	25.7	28,296	116.4
呼吸器・感染症内科	15,668	42.9	22,510	92.6
心療内科	0	0.0	1,922	7.9
消化器内科	14,583	40.0	23,660	97.4
肝胆膵内科	0	0.0	3	0.0
腫瘍内科	2,148	5.9	3,762	15.5
医科総合診療科	0	0.0	1,183	4.9
脳神経内科	11,520	31.6	11,746	48.3
精神科	18,005	49.3	21,976	90.4
小児科	15,042	41.2	14,987	61.7
消化器外科	17,286	47.4	10,252	42.2
乳腺・内分泌外科	2,034	5.6	7,947	32.7
心臓血管外科	8,316	22.8	4,526	18.6
呼吸器外科	2,833	7.8	3,447	14.2
整形外科	21,038	57.6	29,536	121.5
形成・美容外科	2,509	6.9	4,267	17.6
小児外科	2,001	5.5	2,621	10.8
脳神経外科	12,936	35.4	13,157	54.1
皮膚科	4,964	13.6	18,016	74.1
泌尿器科	9,439	25.9	18,347	75.5
眼科	10,785	29.5	24,692	101.6
耳鼻咽喉・頭頸部外科	10,438	28.6	16,936	69.7
産科婦人科	17,677	48.4	30,068	123.7
放射線治療科	328	0.9	9,533	39.2
放射線診断科	293	0.8	249	1.0
麻酔科	49	0.1	6,017	24.8
救急科	3,743	10.3	3,446	14.2
リハビリテーション科	0	0.0	367	1.5
病理診断科	0	0.0	0	0.0
小計 Subtotal	240,664	659.4	380,847	1,567.3



(2022年度)

■ 歯科 Dental

診療科 Clinical Divisions	入院 In-patients		外来 Out-patients	
	延患者数 Total Number of Patients	一日平均患者数 Per day	延患者数 Total Number of Patients	一日平均患者数 Per day
口腔外科系歯科 ※	6,492	17.8	677	2.8
矯正・小児系歯科			31,526	129.7
予防・保存系歯科			17,750	73.0
摂食機能・補綴系歯科			26,986	111.1
歯科総合診療部			23,273	95.8
摂食嚥下機能回復部			12,726	52.4
顎口腔インプラント治療部			5,287	21.8
医療連携口腔管理治療部			7,042	29.0
医療連携口腔管理治療部			10,056	41.4
小計 Subtotal	6,492	17.8	135,323	556.9
合計 Subtotal	247,156	677.1	516,170	2,124.2

※ 口腔外科系歯科上段数字は、言語治療室分の患者数を外数で示す。

診療科 Clinical Divisions	入院 In-patients		外来 Out-patients		
	延患者数 Total Number of Patients	一日平均患者数 Per day	延患者数 Total Number of Patients	一日平均患者数 Per day	
令和3年度 2021	■ 医科 Medical	236,857	648.9	393,478	1,625.9
	■ 歯科 Dental	6,626	18.2	137,555	568.4
	計 Total	243,483	667.1	531,033	2,185.3
令和2年度 2020	■ 医科 Medical	243,995	668.5	395,414	1,627.2
	■ 歯科 Dental	7,059	19.3	124,254	511.3
	計 Total	251,054	687.8	519,668	2,138.6

2 手術件数

Number of Operations

(2022年度)

科名 Clinical Divisions	0 ~ 9,999 点	10,000 ~ 19,999 点	20,000 ~ 49,999 点	50,000 ~ 99,999 点	100,000 ~	科別 件数計 Cases
循環器内科	20	0	66	0	0	86
血液内科	9	1	3	0	0	13
腎・膠原病内科	39	100	10	0	0	149
呼吸器・感染症内科、心療内科	2	10	0	0	0	12
消化器内科	0	15	7	0	0	22
肝胆膵内科	0	0	0	0	0	0
精神科	181	0	0	0	0	181
小児科	0	0	23	0	0	23
消化器外科、乳腺・内分泌外科	117	173	317	182	31	820
心臓血管外科、呼吸器外科	33	29	122	369	74	627
整形外科	251	210	402	120	80	1,063
形成・美容外科	211	104	66	7	9	397
小児外科	65	41	34	13	0	153
皮膚科	114	45	10	0	0	169
泌尿器科	202	132	109	119	4	566
眼科	370	737	726	30	0	1,863
耳鼻咽喉・頭頸部外科	182	90	275	69	15	631
放射線治療科、放射線診断科	0	0	0	0	0	0
産科婦人科	61	41	317	142	0	561
ペインクリニック	11	6	2	0	0	19
脳神経外科	16	31	80	20	149	296
脳神経内科	1	0	0	0	0	1
救急部	0	0	0	0	0	0
内分泌・代謝内科	1	0	0	0	0	1
■ 小計 (医科) Subtotal	1,886	1,765	2,569	1,071	362	7,653
口腔再建外科	224	9	86	7	2	328
顎顔面外科	238	15	51	5	0	309
歯科麻酔科	18	1	0	0	0	19
顎口腔インプラント治療部	0	0	0	0	0	0
小児歯科	0	0	0	0	0	0
■ 小計 (歯科) Subtotal	480	25	137	12	2	656
計 Subtotal	2,366	1,790	2,706	1,083	364	8,309

※ 手術部内で実施した手術件数とする

眼科外来における硝子体注射	572
歯科外来施行手術	1,948
合計 Total	10,829

3 救急外来患者数・救命救急センター入院患者数 *Number of Patients of Medical Emergency Center*

(2022年度)

救急外来患者			救命救急センター入院患者		
延患者数	うち救急車搬送	うちヘリ搬送	延患者数	1日平均患者数	稼働率
4,425	2,580	263	5,708	16.0	80.2%

4 ドクターヘリ出動要請、出動件数 *Activities of Air Ambulance*

(2022年度)

出動要請	応需件数	応需率
1,927	1,378	71.5%

5 総合周産期母子医療センター入院患者数 *Number of In-patients of General Center for Perinatal, Maternal and Neonatal Medicine*

(2022年度)

延患者数	1日平均患者数	稼働率
8,854	24.3	89.9%

6 分娩件数 *Number of Deliveries*

(2022年度)

区分 Divisions	件数 Cases
経膈分娩 Vaginal Deliveries	240
帝王切開 Cesarean Deliveries	169
合計 Total	409

7 リハビリテーション件数

Number of Rehabilitation Cases

(2022年度)

区分 Divisions		件数 Cases						単位数 Number of Units					
		入院 In-patients			外来 Out-patients			入院 In-patients			外来 Out-patients		
		医科 Medical	歯科 Dental	計 Total	医科 Medical	歯科 Dental	計 Total	医科 Medical	歯科 Dental	計 Total	医科 Medical	歯科 Dental	計 Total
脳血管 リハビリテーション(I) Cerebrovascular	PT	10,737		10,737	81		81	13,072		13,072	91		91
	OT	7,970		7,970	146		146	9,519		9,519	222		222
	ST	4,967	65	5,032	651	682	1,333	7,875	139	8,014	1,609	1,177	2,786
廃用症候群 リハビリテーション(I) Disuse	PT	1,043		1,043	1		1	1,128		1,128	1		1
	OT	424		424	1		1	478		478	2		2
	ST	20		20	1		1	21		21	2		2
運動器 リハビリテーション(I) Locomotive Organ	PT	8,388		8,388	854		854	10,996		10,996	958		958
	OT	1,866		1,866	388		388	2,255		2,255	463		463
呼吸器 リハビリテーション(I) Respiratory	PT	2,116		2,116	17		17	2,693		2,693	24		24
	OT	275		275	8		8	305		305	9		9
がん患者 リハビリテーション Cancer patients	PT	3,548		3,548	11		11	4,030		4,030	14		14
	OT	999		999	2		2	1,112		1,112	2		2
	ST	107		107	1		1	169		169	2		2
心大血管リハビリテーション(I) Cardiovascular	PT	4,212		4,212	70		70	5,130		5,130	74		74
摂食機能療法(摂食嚥下リハビリテーション) (30分以上の場合)			139	139		5,373	5,373						
摂食機能療法(摂食嚥下リハビリテーション) (30分未満の場合)		1		1			0						

区分 Divisions	PT	OT	ST	摂食機能療法 Eating Function Therapy	計 Total
総延べ件数 Total Cases	31,078	12,079	6,494	5,513	55,164
総延べ単位数 Total Number of Units	38,211	14,367	10,994		63,572

PT(Physical Therapist)……………理学療法士
OT(Occupational Therapist)…作業療法士
ST(Speech Therapist)……………言語聴覚士

8 臨床検査件数

Number of Clinical Examinations

■ 医科 Medical

区分 Clinical Divisions	院内検査 In-hospital			外注検査 (内数) Outsourced		
	入院 In-patients	外来 Out-patients	合計 Total	入院 In-patients	外来 Out-patients	合計 Total
一般検査 General Examination	33,146	114,068	147,214	111	122	233
血液学的検査 Hematology	307,758	357,276	665,034	834	1,044	1,878
生化学的検査 Clinical Chemistry	1,281,517	1,878,099	3,159,616	6,883	20,407	27,290
内分泌学的検査 Endocrinology	29,649	90,216	119,865	7,223	18,318	25,541
免疫学的検査 Serology	147,883	333,317	481,200	17,104	48,560	65,664
微生物学的検査 Microbiology	19,592	8,097	27,689	168	126	294
病理学的検査 Pathological Examination	8,893	12,166	21,059	535	1,037	1,572
その他検査 Other Examination	2,164	3,239	5,403	588	1,205	1,793
生理機能検査 Physiology	循環器機能 Circulatory	14,403	16,185	30,588		
	脳・神経 Nervous	750	1,503	2,253		
	呼吸機能 Respiratory	1,313	9,166	10,479		
	耳鼻科 Otolaryngology	417	11,749	12,166	1	1
	眼科 Ophthalmology	23,353	90,049	113,402		196
	超音波 Ultrasonic	8,786	17,832	26,618		
その他 (生体) Others	85,979	3,933	89,912			
検体採取 Specimen Collection	3,751	115,837	119,588			
内視鏡検査 Endoscopy	2,543	9,773	12,316			
分類コード未収録 Unclassified	434	3,028	3,462			
小計 Subtotal	1,972,331	3,075,533	5,047,864	33,447	91,015	124,462

(2022年度)

■ 歯科 Dental

区分 Clinical Divisions	院内検査 In-hospital			外注検査 (内数) Outsourced		
	入院 In-patients	外来 Out-patients	合計 Total	入院 In-patients	外来 Out-patients	合計 Total
一般検査 General Examination	24	677	701			
血液学的検査 Hematology	2,709	5,568	8,277			
生化学的検査 Clinical Chemistry	14,367	24,350	38,717	6	731	737
内分泌学的検査 Endocrinology		28	28		2	2
免疫学的検査 Serology	1,030	5,964	6,994	9	214	223
微生物学的検査 Microbiology	51	180	231			
病理学的検査 Pathological Examination	254	680	934			
その他検査 Other Examination		4	4		2	2
生理機能検査 Physiology	循環器機能 Circulatory	24	630	654		
	脳・神経 Nervous		623	623		
	呼吸機能 Respiratory	8	430	438		
	耳鼻科 Otolaryngology	13	201	214		
	眼科 Ophthalmology					
	超音波 Ultrasonic	34	997	1,031		
その他 (生体) Others	352	508	860			
検体採取 Specimen Collection	7	1,781	1,788			
内視鏡検査 Endoscopy	4	324	328			
分類コード未収録 Unclassified	69	8,364	8,433			
小計 Subtotal	18,946	51,309	70,255	15	949	964
合計 Total	1,991,277	3,126,842	5,118,119	33,462	91,964	125,426



1 病院開設承認等

Designation of Medical Institutions

区分	承認年月日
医療法による病院開設承認	1948年 10月 27日
医療法による特定機能病院の承認	1994年 12月 1日

2 看護体系

Nursing System

区分	承認年月日	病床数		
特定機能病院	一般病棟	7:1看護	2016年 9月 1日	763
	精神病棟	13:1看護	2011年 7月 1日	64

3 先進医療

Advanced Medical Service

項	番号	先進医療の名称	適応症	実施科	承認年月日
第3項 B	10	テモゾロミド用量強化療法	膠芽腫（初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。）	脳神経外科	2017年10月 1日
第3項 B	5	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法	全身性エリテマトーデス（初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。）	腎・膠原病内科	2019年 6月 1日
第2項 A	16	細胞診検体を用いた遺伝子検査	肺がん	呼吸器・感染症内科	2020年12月 1日
第2項 A	17	内視鏡的憩室隔壁切開術	Zenker 憩室	消化器内科	2021年 2月 1日

4 その他

Other

事項	認定年月日
臨床修練指定病院(外国医師・外国歯科医師)	1988年 3月29日
エイズ治療ブロック拠点病院(関東甲信越ブロック)	1997年12月12日
(財)日本医療機能評価機構 病院機能評価認定	1999年12月20日(更新認定 2019年12月20日)
地域がん診療連携拠点病院	2007年 1月31日
エイズ治療の中核拠点病院(新潟県)	2007年12月20日
新潟DMAT指定医療機関	2008年 4月 1日
肝疾患診療連携拠点病院(新潟県)	2009年 3月31日
高度救命救急センター	2009年10月 1日
総合周産期母子医療センター	2010年 4月 1日
基幹災害拠点病院(新潟県)	2011年10月 1日
基幹原子力災害拠点病院	2018年11月28日
新潟県難病診療連携拠点病院	2019年 4月 1日
新潟県アレルギー疾患医療拠点病院	2019年 4月 1日
がんゲノム医療拠点病院	2019年 9月19日



法令等の名称 Statutory Authorization		指定年月日 Date of Authorization
健康保険法による特定承認保険医療機関 Medical Institution Authorized to Provide Advanced Medical Services Under The Health Insurance Act		1988年 1月 1日
消防法による救急医療(三次救急医療機関) Authorized Emergency Medical Institution Under The Fire Service Act (Secondary Emergency Medical Institution)		1980年 10月 1日
生活保護法による医療機関 Authorized Medical Institution Under The Public Assistance Act		1977年 2月 1日
国民健康保険法による(特定承認)療養取扱機関 Authorized Medical Institution Under The Public Assistance Act		1988年 1月 1日
労働者災害補償保険法による医療機関 Authorized Medical Institution (Providing Advanced Medical Services) Under The National Health Insurance Act		1977年 2月 1日
地方公務員災害補償法による医療機関 Authorized Medical Institution Under The Local Government Employees' Accident Compensation Act		1977年 2月 1日
原爆医療法 Act for Atomic Bomb Sufferers' Medical Care	一般医療 General Medical Services	1986年 5月 1日
	認定医療 Specific Medical Services	1957年 5月 1日
母子保健法 Maternal and Child Health Act	妊娠乳児健康診断 Maternity and Infant Health Examination	1985年 8月 1日
	養育医療 Medical and Nursing Care	1959年 9月 25日
障害者総合支援法 Services and Supports for Persons with Disabilities Act	育成医療 Medical Services for Children	2006年 4月 1日
	更生医療 Rehabilitation	
	精神通院医療 Outpatient Psychiatric Care	
戦傷病者特別援護法 War Veterans' Relief Act	療養給付 Medical Services Authorized	1955年 3月 30日
	更生医療 Rehabilitation	1955年 3月 30日
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する指定医療機関(結核指定医療機関) Authorized Medical Institution for Tuberculosis Care		2007年 6月 8日



循環器内科



診療科長
猪又孝元

診療科長からのメッセージ

循環器内科では、心筋梗塞・心不全・不整脈といった心血管病に対する先進医療のほか、蓄積された臨床データに基づく新たな治療体系の構築を進めています。また、診療所や周辺病院との連携をとりながら、地域医療の充実を図っています。

外来及び入院診療

心血管病を予防するには、近隣にかかりつけ医を決め、日ごろから生活習慣病を管理することが重要です。一方、急性心筋梗塞や重篤な不整脈・心不全などに陥った場合、緊密な病診連携の

もと迅速な対応が必要となります。当科では、救急部や二次病院と常に連絡を取り合い、24時間対応可能な協力体制を築いています。また、定期的な勉強会を行うことで、かかりつけ医の先生方と、より良い循環器診療の提供に取り組んでいます。

治療方針

わが国では、長寿化に伴う高齢者の増加や欧米化して久しい生活習慣から、心血管病の患者さんが増え続けており、悪性腫瘍に次いで日本人の死因の第2位となっています。当科では、それら心血管病に対する最先端の治療を提供するだけでなく、その発症に深く関わっている生活習慣病に対する治療にも重点を置き、その予防にも携わっております。

特色と主な実績

最新の画像診断を駆使し、高度のカテーテル治療を行っています。過去5年平均の冠動脈カテーテル治療は300件弱、肺動脈や末梢動脈および構造的な心疾患に対するカテーテル治療は100件超、カテーテル心筋焼灼術は約250件、デバイス植込みも100件超に及びます。重症心不全に対しては、種々の治療ツールを駆使して病状の改善を図っています。疾病管理や診療連携も踏まえ、心臓リハビリテーションも積極的に推進しています。



内分泌・代謝内科



診療科長
曾根博仁

診療科長からのメッセージ

糖尿病、脂質異常症、肥満症、高血圧、痛風などの代謝疾患（生活習慣病）、甲状腺や脳下垂体、副腎などの内分泌（ホルモン）疾患の診療を行います。食事・運動などの生活習慣指導を重視しながら、最新の検査や薬剤を駆使して診療しています。一般市民に無償公開している「糖尿病・生活習慣病教室」も好評です。是非ご参加ください。

外来及び入院診療

初診を含む外来診療は、月～金曜の毎日行っておりますので電話予約の上受診してください。専門スタッフによる

「糖尿病・生活習慣病教室」は、他院通院中の患者さんやご家族でも予約なしで随時受講可能です。入院診療は、すべての内分泌疾患を受け入れると共に、糖尿病、肥満症については、良好なコントロール達成のための教育入院を、遠隔地からの患者さんも含めて行っています。退院後にかかりつけ医に紹介することも可能です。

治療方針

糖尿病・肥満症は、科学的根拠に基づく食事/運動/禁煙などの生活習慣療法を最重視しつつ、最新の薬物療法も取り入れ、合併症予防と健康寿命延伸を目標に治療しています。また持続血糖モニターやインスリンポンプ療法など最新治療も行います。内分泌疾患では、ホルモン機能検査や甲状腺腫瘍の超音波下穿刺吸引細胞診を含む専門検査による診断と、それに基づく各科との連携による手術治療、放射線アイソト

プ治療等も実施しています。

特色と主な実績

県全域からコントロール困難な患者さんを含め、広く受け入れています。ビッグデータ分析により各患者さんに最適な予防治療内容を探る研究の世界的拠点で、内外の診療ガイドラインに貢献しています。県の「にいがた新世代ヘルスケア情報基盤」とも連携し、最新の科学的データに基づく診療を目指しています。自治体や健診機関、社会団体とも協力し、患者さん向け講演会開催やテキスト作成などを含む社会啓発活動にも力を入れています。





血液内科



診療科長
瀧澤 淳

診療科長からのメッセージ

悪性リンパ腫、白血病、骨髄腫など造血器腫瘍を中心にあらゆる血液疾患に対し、高度な診断技術と最新の医学エビデンスに基づく最先端治療を行っております。多数の県内関連病院の中核病院として各病院と協力しながら、最新の薬剤を用いた先端治療や造血幹細胞移植療法も積極的に行なっていますので是非ご相談ください。

外来及び入院診療

外来診療：週日は毎日午前2名の医師が、各種血液疾患を対象に診療に当たります。火曜と水曜午後には専門外

来も行われています。外来化学療法も行なっています。

入院診療：一人一人の患者さんに対し、各種学会で認定された専門指導医を含む複数の医師や看護師・薬剤師など診療スタッフによる全人的チーム医療を行なっています。造血幹細胞移植療法を行うバイオクリーンルームや集学的治療棟などの設備面も充実しています。

治療方針

様々な血液疾患に対して各種検査（血液検査、画像検査、骨髄検査、組織生検、染色体・遺伝子検査など）を駆使した正確な診断を行い、患者さんの病態と全身状態を十分に把握した上で、一人一人の患者さんに適した、最新の科学的エビデンスに基づく治療方針を提案させていただきます。何より患者さんが安心して治療に専念できる医療を心がけています。新しい薬剤の開発

治験へのご協力を相談させていただく場合もあります。

特色と主な実績

わが国の主要な造血幹細胞移植施設の一つであり、HLA半合致移植を含む質の高い造血幹細胞移植を行っています。悪性リンパ腫に対しては正確な病型診断に基づく個別化治療を行なっています。多発性骨髄腫は新規薬剤と自家末梢造血幹細胞移植を併用した最新治療を導入しています。開発治験や全国規模の新規治療開発臨床研究にも携わり好成果をあげています。最先端医療であるCAR-T療法（キムリア）が提供可能な施設です。

腎・膠原病内科



診療科長
成田一衛

診療科長からのメッセージ

慢性腎臓病、急性腎障害、高血圧、糖尿病、リウマチ・膠原病を中心に診療し、高い専門性と同時に幅広い総合力を持つよう心掛けています。国民病ともいえる慢性腎臓病は、単なる腎臓病でなく、血圧、血糖、脂質、骨代謝、酸塩基、電解質、貧血などの集学的管理が求められます。腎臓を通して全身を診る姿勢を迫及しています。

外来及び入院診療

外来診療：週日は基本的に腎・高血圧（新患、1、2）、糖尿病・腎臓、リウマチ・膠原病の5つの診療室で行って

います。

入院診療：3チーム制を導入しており、指導医、専門医、専攻医、研修医など5～7名の医師で主治医団を形成し、診療と指導の体制が充実しています。腎・膠原病内科に加えて、他科入院中の透析患者さんや集中治療室で急性血液浄化を必要とする方も多く、常時50～60人の入院患者さんの診療に当たっています。

治療方針

患者さんの症状や検査結果を基に正確に診断します。腎生検の適応がある症例では積極的に行い、確定診断を得ます。末期腎不全からの透析導入では、患者さんに寄り添って、医療を行なっています。治療方針は最新のガイドライン、国内外の文献を参照し、患者さんやご家族と相談して最も適した治療方針を決定します。教授回診や症例検討会で活発な議論を行い、先進的かつ

安全な、より良い医療を提供できるように心がけています。

特色と主な実績

腎生検、透析療法を国内で初めて行い、腎臓病の国内の研究をリードし、腎臓病の治療の発展に大きく貢献してきました。成田教授は、2020～2022年度厚生労働省「難治性腎障害に関する調査研究」班の代表を務め、IgA腎症、急速進行性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、多発性嚢胞腎など腎領域難病について調査研究を行い、ガイドライン策定など医療水準の向上と良質かつ適切な診療提供体制の構築に向けて全国の中心的な役割を果たしています。



呼吸器・感染症内科



診療科長
菊地利明

診療科長からのメッセージ

私たちが担当する診療領域は、肺癌に代表される胸部悪性腫瘍、生活習慣病としてのCOPDや睡眠時無呼吸症候群、アレルギー性疾患の喘息、さらには肺炎や後天性免疫不全症候群などの感染症と多岐に亘ります。これらの疾患にお困りの患者さんへ、最良の医療を提供することを心掛けて常に診療しております。

外来及び入院診療

外来診療：毎日午前・午後5～10名の医師が診療を担当いたします。

入院診療：呼吸器内科、感染症内科専門医が豊富な知識と確かな技術を生かしつつ、細やかな全人的医療を行います。次世代の優秀な医師育成も当科の責務として、力を注いでいます。

治療方針

呼吸器・感染症内科は、非常に幅広い病気、年齢層の患者さんを診察する科です。治験や臨床研究など高度専門的な治療を行うことはもちろん、それぞれの患者さんの考えを尊重し、最適な治療を提供いたします。

特色と主な実績

呼吸器・感染症内科で扱う肺癌、喘息、肺炎等の治療の進歩は目覚ましいものがあります。近年の個別化医療の進歩に伴い、治療方針決定に必要な検査は複雑化してきました。当科では最先端の検査を導入して診断速度・精度を高め、診断困難な病気や重症患者さんの診療を行っています。特に免疫治療を含めた肺癌の集学的治療では県内では随一の症例数となっています。



心療内科



診療科長
菊地利明

診療科長からのメッセージ

心療内科では、心身医学の臨床的実践、すなわち全人的医療の実践及びストレスと身体疾患との関係について配慮した診療を行っています。平成3年より大学病院外来に心身医学科外来という名称で設置され、現在は心療内科外来として診療し活動しています。

外来及び入院診療

心療内科外来は、診療を月曜、火曜、水曜、木曜に行っています。なお、新患は、原則水曜に紹介予約を受けています。外来担当スタッフは、3名で、月・水・木曜日は1名、火曜日は2名

で外来診療を行っています。また歯科口腔領域では、歯科麻酔科の医師の協力を得て連携しています。特殊医療として、原則第4木曜日午後に、自律訓練法外来を行っています。

治療方針

身体疾患の中で、その発症や経過に心理社会的因子が密接に関与し、器質的ないし機能的障害が認められる病態（一部の気管支喘息や過敏性腸症候群など）が認められる患者さんを主な診療の対象とし、治療的自己を重視した心身相関について着目した診療をしています。器質的所見が乏しいにもかかわらず、身体症状がある機能的な身体症候群に対する心身医学アプローチも行ってます。

特色と主な実績

日本心身医学会（1991）が定義する「心身症：本態性高血圧症、過敏性腸症候

群、気管支喘息、糖尿病等」を中心に心身症の専門医等が診療にあたっています。一般的治療で、なかなか改善が困難な場合、院内各科の他、地域の診療所や病院からの紹介により、心身相関に注目し、心身医学的アプローチを実施します。特に内科領域の心身症の専門治療を行っているのは、新潟県内で唯一当科のみとなります。



消化器内科・肝胆膵内科



診療科長
寺井 崇二

診療科長からのメッセージ

消化器疾患の標準診断・治療を実施しています。その上で、治せない病気に挑み、また診断のつかない消化器疾患に取り組むことで、新しい診断・治療を開発し、病気に悩む患者さんの未来を変えるというMission & Visionで、日々の臨床に取り組んでいます。

外来及び入院診療

当科は、日本消化器病学会・日本肝臓学会・日本消化器内視鏡学会などが認定した専門医や指導医が患者さんの診療に当たっています。教授回診や各種検討会で検討された治療方針に基づき、

入院患者様の検査・治療に当たっております。現在日本でできる最高水準の消化管・肝胆膵領域の内科診療を提供していきます。

治療方針

患者様の治療方針は、毎週当科で行われる教授回診、各種検討会や内科・外科・腫瘍内科・放射線科医が集まって行われるカンサーボードでの話し合いの中で決定しています。高度化する医療の中で、安心、安全な医療の実践を目指しています。

特色と主な実績

重症肝不全、重症膵炎は大学を中心に県内全域にネットワークを構築しています。また食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切除術 (POEM) や高度肥満症に対する内視鏡的胃内バルーン留置術 (自由診療) も行っています。小腸内細菌異常増殖症の診断、最新の

内視鏡手術、肝硬度測定も実践しています。また各種医療機器開発、肝硬変症などに対する再生療法の治験 (医師主導治験) を先駆け実施してきた実績があります。



脳神経内科



診療科長
小野寺 理

診療科長からのメッセージ

脳神経内科は、脳・神経・筋肉の疾患 (認知症・脳梗塞・パーキンソン病など) や症状 (記憶力の低下、手の痺れや動かしにくさ、歩行障害、ふるえなど) の診断、治療を行います。新潟大学には国立大学附置研究所では唯一の脳研究所があります。当科は脳研究所とも密接に連携し、あらたな治療法開発や臨床治験も行っています。

外来及び入院診療

外来診療は木曜日を除き、4名前後の神経内科専門医 (頭痛、認知症、脳梗塞など、総合的な神経診療のエキス

パート) が診察にあたります。新患外来は紹介制を取っています。入院診療は、神経内科専門医と、レジデントとのチーム制で看護師、薬剤師、リハビリスタッフなどと協力して診療にあたっています。多くの病気で全国の大学病院の中でも有数の症例経験数があり、さらに国際的な治療研究にも参画し先進的治療の提供につとめています。

治療方針

脳神経内科は脳梗塞など分単位での治療が必要な疾患から、認知症のような月・年単位で変化する疾患まで幅広く対応し、それぞれでの確な早期診断、最善の治療を心がけています。複数の専門医により診療内容を確認し、診療にあたります。疾病としての側面のみではなく、患者さんのおかれている環境や、人生観を尊重した治療を提供します。関連病院とも連携しつつ、患者さんに寄り添った最善の医療を提案し、

それを実践してまいります。

特色と主な実績

当院の脳神経内科は、日本で最も歴史のある脳神経内科の一つであり、全国有数の様々な症例の経験数を誇ります。その歴史から新潟県は脳神経内科医数も多く、全国的にも脳神経内科の診療レベルは高度な県です。さらに我が国で唯一の脳疾患の研究施設、脳研究所と連携しています。最先端の診断、医療から、地域に根ざした診療まで、様々な診療体制で、新潟県の脳・神経・筋疾患の皆様に、最善の医療を安全に提供しています。



腫瘍内科



診療科長
西條康夫

診療科長からのメッセージ

腫瘍内科は、がん薬物療法（化学療法）を臓器横断的に行う診療科です。がん薬物療法は、手術療法、放射線療法と共に、がん治療の中心となっています。がん薬物療法には、分子標的治療薬や免疫チェックポイント薬が導入され、治療成績が急速に向上しています。

外来及び入院診療

他施設または他診療科から紹介されたがん患者さんのがん薬物療法を行います。原則、入院でがん薬物療法を導入し、副作用などを観察後に、外来で治療を継続します。エビデンスに基づい

て最新・最良の治療を行うとともに、副作用を軽減する支持療法にも力を入れています。また、がん薬物療法にとどまらず、他診療科や緩和ケアチームと協力してがん患者さん包括的に診療しています。

治療方針

小児がんと造血器腫瘍を除く、全てのがん患者さんの「がん薬物療法」に対応します。最新の治療法を行いつつ、副作用の予防・軽減に努め、安全ながん薬物療法に努めています。チーム診療を行い、治療方針などは全て診療科内で検討されています。また、科内だけではなく、院内がんボードに提示して、積極的に他診療科の意見も聞いています。

特色と主な実績

経験豊富ながん薬物療法専門医が治療を担当しています。消化器がんや乳がんの他、甲状腺がん、肉腫、原発不明がんなどの希少がんの治療経験が豊富です。併存疾患や併用薬剤を有する患者さんに対しても、それらの背景を考慮した至適ながん薬物療法を行っています。



精神科



診療科長
染矢俊幸

診療科長からのメッセージ

精神科では、統合失調症、気分障害、発達障害など様々な精神疾患に対して、患者さんの立場にたった、最新の専門的な医療を提供しています。「臨床を重視し、その中から問題を発見して、自ら科学的に解決する」という姿勢を大切に、皆が協力して臨床・教育・研究に取り組んでいます。

外来及び入院診療

外来診療：火曜日を除く平日午前の新患外来では1～2名、再診外来では4名程度の医師が診療を担当しています。また児童思春期の患者さんを対象に専

門外来を設置しています。

入院診療：日本精神神経学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本総合病院精神医学会、日本児童青年精神医学会、日本小児精神神経学会など各種学会認定専門医とその指導を受けた専攻医が診療に当たります。公認心理師による心理検査も行っています。

治療方針

統合失調症や気分障害、発達障害など様々な「こころの病」に対する最先端の薬物療法や精神療法を取り入れ、受診された患者さんすべての「こころの悩み」を少しでも減らすことができるように日々取り組んでいます。

入院診療では、医師、看護師、公認心理師、精神保健福祉士、薬剤師、栄養士など、スタッフがお互いに情報共有を図りながら、患者さんが安心して療養できる環境を目指しています。

特色と主な実績

基幹的综合病院という特色を活かし、内科や麻酔科と連携しつつ、治療抵抗性統合失調症へのクロザピン薬物療法、難治性うつ病への修正型電気けいれん療法および反復経頭蓋磁気刺激療法、心的外傷後ストレス障害に対するトラウマ治療に取り組んでいます。また副作用や身体合併症に迅速に対応できるシステムを確立しています。リエゾンチームおよび緩和ケアチームによる患者サポート、せん妄予防を目的とした睡眠薬適正使用にも取り組んでいます。



小児科



診療科長
齋藤昭彦

診療科長からのメッセージ

「子どもは、大人のミニチュアではない」と言われます。子どもは、大人をただ小さくしただけではなく、年齢による特徴があり、それに合った診療が必要です。我々小児科医は、子どもたちが立派な大人になれるようにサポートし、そして、子どもたちが困っていることを社会に代わりに伝える大切な役割があります。

外来及び入院診療

外来診療：原則予約制で感染症、腎臓、内分泌・代謝、血液・腫瘍、循環器、新生児、リウマチ・膠原病、神経の専

門医が担当します。急患はこの限りではありません。セカンドオピニオンも受け入れています。

入院診療：上記専門医と後期研修医が24時間体制で診療を行います。小児がん医療センター、総合周産期母子医療センター、高次救命災害治療センターと連携し、造血細胞移植、新生児医療、高次救命救急・集中医療も行います。

治療方針

大学病院の使命として専門、先進医療を行います。診療の際には医師・看護師のみならず保育士、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、院内学級教諭といった多職種が関わり、病気だけを見るのではなく患者さん及びご家族を全人的にみるよう心掛けています。子どもの権利を重視し、インフォームドコンセント及びアセントにより年齢に応じた説明を行い、理解を得ることで本人が積極的に治療を受けられるよう

心掛けています。

特色と主な実績

当科の特徴として、県内外からの感染症コンサルテーションの受付、小児の血液・腫瘍患児の診療、小児の心臓手術（カテーテル心房中隔欠損閉鎖術の認定施設）の実施、内分泌代謝・糖尿病専門施設として希少難病疾患の診療・新生児マススクリーニング・学校保健への関与、小児の腎移植・小児腎生検の実施、小児のリウマチ疾患の診療、新生児・未熟児の診療などがあげられます。これらの多くは、県内で当科しか行っていないものです。



消化器外科



診療科長
若井俊文

診療科長からのメッセージ

消化器外科は約30名の外科医が所属し、上部消化管（食道・胃）、下部消化管（小腸・大腸）、肝胆膵・移植を中心とした診療を行っています。主に悪性腫瘍、がんを対象とし、取り組んでいるテーマは「R0（遺残腫瘍の無い）手術の確立」です。「術後の再発、癌遺残の根絶方法を開発する」という一念で診療を行っています。

外来及び入院診療

外来は、月・水・金を中心にそれぞれ専門分野の医師を配置して、患者さんのニーズに応えられるようにしていま

す。一般病床は41床で、チーム主治医制で診療にあたっております。手術日は、火・木・金であり、年間約800例の手術を行っております。大きな侵襲を伴う手術や重症例は、術後に集中治療室（ICU）で集中管理を行うこともあります。また、月・水には内視鏡検査日を設け、内視鏡検査・治療も積極的に行っております。

治療方針

疾患の正確な診断に基づき、低侵襲の鏡視下手術あるいは肛門温存手術をはじめとする機能温存手術と、術後再発や癌遺残を根絶する集学的治療を心がけています。他院で治療困難とされた患者さんや臓器移植を希望する患者さんにも対応しています。また、腹部緊急疾患に対応すべく24時間体制で緊急診療も行っています。常に患者さんを中心とした医療を展開し、最先端の医療を全人にお届けできるよう一丸と

なって努力しています。

特色と主な実績

食道・胃・大腸・肝臓・膵臓の各領域で鏡視下手術を取り入れる一方、根治性を追求した拡大手術も実施しています。直腸癌・胃癌・食道癌ではロボット支援手術を導入しています。手術だけではなく、がんの遺伝子異常に基づいた個別化治療（がんゲノム医療）を取り入れ、治療成績向上を目指しています。また、難病に指定されている潰瘍性大腸炎に対する治療は全国屈指の施設です。1型糖尿病に対する膵臓移植にも取り組んでいます。



手術支援ロボットを使用した手術

乳腺・内分泌外科



診療科長
若井俊文

診療科長からのメッセージ

乳腺・内分泌外科は約10名の外科医が所属し、乳腺科として診断から治療までを一貫して診療を行っています。主に乳がんを対象とし、3つの“R”：residual遺残腫瘍ゼロ、recurrence術後再発ゼロ、regional medicine地域医療をスローガンとして掲げ、診療を行っています。

外来及び入院診療

外来は、月、水に初診外来、月、水、金に再診外来を行っています。手術日は、火、木、金であり、年間約150例の乳がんの手術を行っています。治療

を必要とする患者さんに速やかに対応するため、新患外来は予約制とさせて頂いております。外来は地域の病院と連携して、診療を行っています。治療は、より低侵襲で整容性に優れた手術や、患者さんの希望に応じて、形成外科医と連携して乳房再建手術を実施しています。

治療方針

特に乳がんの治療に重点をおいています。乳がんの治療は、手術治療、薬物治療、放射線治療が3本柱となります。乳腺専門医、薬物療法専門医の医師を中心として、様々な分野の医師、医療スタッフと協力し、患者さんに寄り添いながら最善、最良の医療が提供できるよう日々努力しています。遺伝性乳がんにも取り組んでおり、希望される患者さんには、遺伝カウンセリングや遺伝検査を提供できる体制を整えています。

特色と主な実績

当院では総合病院の特色を生かし、病状の進行した患者さんや様々な併存症をもつ患者さんにも最適な乳がん治療を提供します。乳房再建手術には、人工乳房（シリコンインプラント）を用いる方法と、自身の筋肉や脂肪組織（自家組織）を移植する方法があり、形成外科医と連携して手術を行っています。妊娠期の乳がんの治療や妊孕性温存を支援します。また、がんゲノム医療や予防的乳房切除などの新しい医療にも取り組んでいます。



心臓血管外科



診療科長
白石修一

診療科長からのメッセージ

心臓血管外科では新生児から高齢者まで全ての年齢層の心臓病・血管疾患に対する外科治療のスペシャリストが、関連各科・部署と綿密に連携しそれぞれの患者様に最適な治療を提供しています。定型的な手術はもちろん、低侵襲手術や高難度手術などの広い範囲に対応しており、新潟県の最後の砦としての役割を果たしています。

外来及び入院診療

外来診療：小児心臓外科を水曜午前、成人心臓血管外科を水・金の午前、新患外来を月曜午後開設しています。

また、先進血管病・塞栓症治療予防講座を月曜午前に開設し、災害後のエコノミークラス症候群などの予防や加療を行っています。

入院診療：スタッフ（成人心臓：3名、小児心臓：3名）、担当医2名、レジデント5名が24時間体制で診療に当たります。

治療方針

当科は先天性心疾患、後天性心疾患、血管疾患の3分野を対象とし、常に最先端の技術と知識を導入して病態の確かな把握、迅速な診断と確実な手術・治療を行っています。循環器内科、小児科、放射線科、集中治療科など複数科の専門医と常に連携して治療方針の決定などを行うことで、患者様のニーズに合った医療を展開するよう心がけています。

特色と主な実績

小児心臓外科：軽症例から新生児やNorwood手術などの重症例まで全領域の手術を年間150例以上行い、成人先天性心疾患にも対応しています。

成人心臓外科：心拍動下バイパス手術や弁形成手術などの経験も多く、最近では低侵襲の小開胸心臓手術（MICS）も積極的に行っています。

血管外科：大動脈瘤に対するステントグラフト治療を数多く経験しており、ハイブリッド手術室開設に伴い、手術件数の増加だけでなく、ブランチ挿入など適応の拡大にも積極的に取り組んでいます。



呼吸器外科



診療科長
土田正則

診療科長からのメッセージ

呼吸器外科では呼吸器疾患の診療と手術に精通したスペシャリストが、関連領域の診療科と連携をとりながら最適な治療を提供します。体に負担の少ない低侵襲手術、進行がんや併存疾患を合併した患者さんに対する手術など、さまざまな対応が可能です。

外来及び入院診療

外来及び入院診療 外来診療：月・水・金の午前中に呼吸器外科専門医資格を有する医師が診療に当たります。

入院診療：スタッフ5名、担当医とレジデントが24時間体制で診療を担当し

ます。手術は主に木曜、金曜に実施していますが、治療を急ぐ手術に対しては緊急で対応しています。呼吸器内科との連携が円滑で、感染症や腫瘍に対する内科治療にも対応しています。

治療方針

病態の的確な把握、迅速な診断、手術・治療を心がけています。悪性腫瘍の治療方針は、病院のキャンサーボード（腫瘍検討会）で呼吸器内科、腫瘍内科、放射線科など他科との合協議で決定し実施します。常に関連科と連携しながら複数の専門医によって診療を行い、患者さんの病状に応じた最新・最適な医療を提供するように心がけています。

特色と主な実績

肺癌に対しては、縮小手術、胸腔鏡手術、拡大手術と患者さんの状態にあった高度な医療を提供しています。近年は肺癌手術全体の9割で胸腔鏡手術を実施しており、呼吸機能を温める区域切除は胸腔鏡下を実施しています。2021年からロボット手術（Da Vinci）を導入しました。一方で、他院で切除不能と診断された局所進行肺癌に対しては、術前導入治療（学放射線治療）を実施後に手術を行って完全切除を達成しています。



整形外科



診療科長
川島寛之

診療科長からのメッセージ

整形外科では、脊椎・脊髄疾患、骨・軟部腫瘍、関節疾患、リウマチ、外傷（骨折、スポーツ外傷）、骨粗鬆症の診療を担当しています。日々の日常生活や移動・歩行を痛みなく、円滑に行うことができるように、最小侵襲手術、正確で安全なナビゲーション手術、微小な神経や血管縫合（マイクロサージェリー）、軟骨再生移植など最新の技術を駆使しています。

外来及び入院診療

外来診療：毎週火・木・金曜日の午前中に行っており、専門外来に分かれて

対応しております。専門外来には骨粗鬆症、関節リウマチ、脊椎・脊髄、腫瘍、手の外科、小児整形、膝・肩・スポーツ、股関節、外傷などがあります。

入院診療：各専門分野とも整形外科専門医複数体制で手術症例を中心に行っております。手術日は毎週月・水曜日が基本になっております。また骨軟部腫瘍の化学療法も行っております。

治療方針

病態の迅速かつ的確な把握に心がけ、患者個々の病状や、社会的背景、希望も考慮して保存的治療、手術的治療を行っております。保存的治療については適切な情報提供、リハビリ指導、装具療法、薬物選択などを心がけております。手術適応については各診療班で検討、また場合によっては複数の診療班で検討し、最終的な手術前計画を科全体の検討会で検討してから実際の手術を施行しております。

特色と主な実績

現在、当科では年間約1,000件の手術を施行しております。脊椎・脊髄分野のナビゲーションを用いた脊椎固定術、脊髄腫瘍やヘルニアに対する顕微鏡下手術、関節疾患に対する三次元術前計画やナビゲーションを用いた人工関節置換術（股関節、膝関節など）、関節鏡による手術（膝、肩、足など）、多くの外傷関連手術、骨軟部腫瘍関連手術など多くの分野において手術加療を施行しております。また膝関節の軟骨損傷に対する自家培養軟骨移植術の認定施設になっております。



形成・美容外科



診療科長
松田 健

診療科長からのメッセージ

形成外科は生まれつきの欠損・変形とともに、外傷・悪性腫瘍切除後の後天的な欠損・変形の再建を担当しています。それらの病気に対して高度な手術技術を駆使して対応しています。

外来及び入院診療

外来診療：火曜日午前・木曜日午前に2～6名の医師が診療に当たります。
入院診療：形成外科指導医と形成外科専門医の7名と研修医が診療に当たります。

特殊外来：顔面神経麻痺外来、唇顎口蓋裂外来、頭頸部再建外来、頭蓋顔面骨外来、乳房再建外来、リンパ浮腫外来、皮膚腫瘍外来、下肢静脈瘤外来、眼瞼下垂外来、レーザー外来

治療方針

私たちの形成外科は体の外見、すなわち整容を大事にしますが、機能も可能な限りの改善に努め、“整容と機能の両立”を目指した診療を行っています。そのため、複数の専門医によって診療を行えるよう常に心がけています。

特色と主な実績

形成外科専門医に加え、頭蓋顎顔面外科、小児形成外科、皮膚腫瘍外科、熱傷、手外科、創傷外科、レーザーの各専門医が在籍し、年間400件以上の手術を行っております。形成外科単独の診療はもちろん、耳鼻咽喉科、外科、整形外科、救命救急科、脳神経外科、眼科、口腔外科、泌尿器科、皮膚科等、多くの診療科との共同診療・再建手術を行っております。



小児外科



診療科長
木下義晶

診療科長からのメッセージ

小児外科は、成人外科疾患と異なり先天性の原因で発生する病気を扱っています。

一般の方にはなじみがない場合が多く、いろいろ悩まれる前に一度当科を受診戴ければと思います。専門的知識と技術で対応させて戴きます。大きな未来を背負っている子ども達の役に立ちたいと考えて頑張っております。

外来及び入院診療

外来診療：新患は月曜日から金曜日まで毎日受け付けております。再診は月曜日、水曜日、金曜日です。（火曜日、

木曜日は手術日のためお待ち頂くこともございます。）

特殊診療：慢性便秘外来、胃食道逆流症外来、磁気刺激治療などを行っています。

入院診療：日本小児外科学会指導医・専門医を含めた計6名のスタッフで24時間体制で診療にあたっています。

治療方針

当科は小児期発症の外科的疾患を診療する分野です。小児とは一般的に新生児から15歳までを指す言葉として定義されることが普通ですが、小児期発症の疾患で一度診察された方は、必要があれば成人になってもずっとフォローし、健やかな成長と社会活動を支援しています。

特色と主な実績

以下の様な特色を生かした小児外科医療を行っています。

- ・小児固形悪性腫瘍に対する高度な集学的治療（Niigata Tumor Board）
- ・小児の稀少泌尿生殖器疾患に対する医療チーム
- ・小児鏡視下手術（胸腔鏡手術、腹腔鏡手術、単孔式手術など）
- ・臍、腋窩皺を利用した低侵襲手術
- ・漢方治療を取り入れた小児外科医療
- ・高頻度仙骨磁気刺激を用いた神経調節



脳神経外科



診療科長
大石 誠

診療科長からのメッセージ

当院の脳神経外科は、脳神経外科を専門とする診療科として日本で最初に設置されました。以後70年にわたり、私たちが頼ってくれる患者さんへの責任と愛情を胸に、丁寧な診療、技術の向上と伝承にたゆまぬ努力を重ねて参りました。さらに新潟県全域の病院とともにまさにワンチーム診療で患者さんへの貢献を目指しています。

外来及び入院診療

外来受診に当たって、新患は月、水曜日に受け付けていますが、当科は特殊外来を特徴としており、前医からの紹

介状やCT・MRIなどの画像情報があると診察が円滑に進みます。入院後は主治医がチーム体制で診療に当たりますが、何よりも患者さんを第一に考え、全ての症例は検討会を行なって治療方針を決定しています。

治療方針

当科では神経膠腫、髄膜腫、聴神経腫瘍、下垂体腫瘍などの各種脳腫瘍、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、もやもや病などの脳血管障害、顔面けいれん、三叉神経痛、難治性てんかんなどの機能的脳神経外科疾患、先天性水頭症、先天奇形などの小児神経外科疾患、脊髄・脊椎疾患等、脳神経外科疾患全般にわたって、それぞれの分野のエキスパートが最適な治療を提供しています。

特色と主な実績

年間手術件数は、脳神経外科手術が約300件、血管内手術が約100件と、国内でも有数の手術件数を有しています。今春より新しい手術用顕微鏡や脳血管撮影装置が導入されまして、最先端・高難度の手術を含めた治療に教室員一丸となって取り組んでいます。



皮膚科



診療科長
阿部理一郎

診療科長からのメッセージ

皮膚科では、一般的な皮膚疾患を正しく診断・治療することはもとより、最高レベルの医療を患者さんに提供できる診療体制を目指しています。特に新潟県内の他の医療機関で対応が困難な重症疾患や希少疾患の患者さんに対して、多数の経験豊富なスタッフが診療を行っております。

外来及び入院診療

外来診療：初診の患者さんの診察は、月・水・木曜日に行っております。専門外来として、薬疹・リンパ腫外来、遺伝性皮膚疾患外来、腫瘍外来、皮膚

膠原病外来、乾癬外来、アトピー性皮膚炎外来を開設しており、各分野の専門医が診療を担当します。

入院診療：皮膚科専門医を中心とした病棟診療チームが、入院治療が必要なすべての皮膚疾患の患者さんを受け入れております。緊急入院にも随時対応しております。

治療方針

詳細な診察と病理検査を含めた各種検査による正確な診断に基づいて治療を行います。診断や治療方針につきましては、診療科長を中心とした多数の皮膚科専門医も参加する科内の検討会で徹底的に検討した上で決定しております。入院診療では週1回の診療科長による総回診や毎日のチーム回診により、患者さんの最新の病状を複数の医師が把握することで、確実に漏れのない治療を行っております。

特色と主な実績

新潟県内の皮膚科では最多の病床を有しており、皮膚科専門医の在籍数も最多です。ほぼすべての皮膚疾患に対応が可能で、専門外来が豊富であり、常に最新の診療を提供しております。特に薬疹の分野では、重症薬疹発症機序の解明を目指し臨床研究にも力を入れており、国内でも有数の診療拠点となっております。また、様々な皮膚疾患での臨床試験（治験）にも積極的に取り組んでおります。



泌尿器科



診療科長
富田善彦

診療科長からのメッセージ

同じ病気でも、患者さんごとに、病気の程度や性質は皆異なり、最適、最良の治療も異なります。新大病院泌尿器科では、主に泌尿器科癌、腎移植、小児疾患について高度な診断技術を駆使し患者さんの病態を的確に把握し、標準治療の他、様々な新規治療から、患者さんご自身、ご家族とご相談の上、最適治療を選んでいきます。

外来及び入院診療

外来では水曜日を除く午前には第1診察室から患者さん毎に診察室を固定し、再来新患の火、木、金曜は5-10名、

新患中心の月は2-3名の医師が診療に当たります。腫瘍、移植、小児などの専門外来があります。入院診療は、3チーム制によるチーム制を採用しており、各チームは5-6名の医師からなり、腫瘍チーム、移植チーム、小児チームに分かれて、それぞれ高い専門性を持った診断、治療(手術、薬物治療)を行っています。

治療方針

それぞれの患者さんの病態の的確な把握、迅速な診断、治療を心がけています。術前・術後検討に加えて、治療難渋症例については活発な議論を行っており、最新知見を紹介討議、個々の手術症例検討、また、他の医療従事者や他科医師との合同カンファレンスなども定期的に行い、患者さんを中心に考えた最良、最適な治療を行うことをモットーとしております。

特色と主な実績

当科では日本初の腎移植術、世界初の腹腔鏡副腎摘除術を行いました。県内唯一の腎移植施行病院であり、血液型不適合症例や再移植症例も行っていきます。ロボット支援下前立腺摘除術は県内最多の手術数、また唯一の小径腎癌のロボット支援手術施行病院です。また、通常の癌薬物療法の外、常時10件を超える開発治験（多くは国際共同治験）を実施しており、国内有数の実績です。小児手術では県内唯一の尿道奇形、外陰部異常に対する形成術施行施設です。



眼科



診療科長
福地健郎

診療科長からのメッセージ

眼を守ることは、それは生涯にわたって生活のクオリティーを守ることに直結し、高齢化社会にあって眼科医療の需要はさらに高まっています。当科は新潟県の眼科に関する中核病院、唯一の基幹研修施設で、緑内障をはじめとするあらゆる眼科疾患に対して県内外からの患者様のご紹介に対応可能な診療体制を整えています。

外来及び入院診療

外来診療：月～木曜日午前・午後には各専門外来および新患担当医が診療にあたっています。2021年4月より外来手

術室が本格的に稼働開始となり、白内障を中心とした日帰り手術や硝子体内注射などを外来手術室で行っています。入院診療：手術が必要な患者様を中心に、それぞれの専門分野の眼科専門医と研修医が診察・治療を行っています。治療の標準化により、入院期間の短縮、早期の社会復帰を目標としています。

治療方針

詳細な問診や診察を行い、検査においては超広角走査型レーザー検眼鏡や光干渉断層計(OCT)をはじめとする最新の機器も用いて正確な診断を行うことを心がけています。重症疾患も安全に治療できるよう手術機器(白内障、硝子体、顕微鏡)も高機能なものを導入して治療にあたっています。特に複雑な病気に対しては専門分野をまたいだ合同術前カンファレンスで議論し、患者様にとって最善の治療が提供できるよう心掛けています。

特色と主な実績

緑内障診療は古くから当科の看板であり、手術実績や難症例の治療など全国でも有数の施設となっています。また、角膜移植、眼腫瘍・形成手術など一般的な施設では対応できない治療にも積極的に対応しています。2021年度は内眼手術2040件、外眼手術825件の実績があり、先進的な医療を行うだけでなく、蓄積された診療データの解析によって診療の精度を上げ、患者様が安心して治療を受けられるための研究も行っています。



耳鼻咽喉・頭頸部外科



診療科長
堀井 新

診療科長からのメッセージ

耳鼻咽喉・頭頸部外科は新潟県最後のとりでとして、耳、鼻だけでなく、のど、口の中、頸部のすべての病気の治療を行っています。舌やのどにできる癌に対しても手術をふくむ専門的で高度な治療を行っています。聞こえ、味、におい、といった生活の質を左右する感覚の障害に対する治療も行っています。

外来及び入院診療

外来診療：初診の患者さんは、火曜、木曜、金曜の午前に各疾患の専門医4-5名で担当します。癌の患者さん

に対する化学療法の一部も外来通院で行っています。

入院診療：日本耳鼻咽喉科専門医14名（うち指導医11名）と研修医が複数主治医制で診療に当たります。できるだけ入院期間を短くして、患者さんの負担が少ない診療を行っています。

治療方針

難聴めまい、鼻咽喉頭、頭頸部腫瘍の3つのグループに分かれて診療を行っています。初診より専門分野の医師が担当し、病態の説明、必要な検査について説明し、検査結果に基づいて治療方針の提案を行っています。どの診療グループも世界標準の診療を原則とし、治療方針の決定にあたっては、複数の医師で検討を行い、患者さんに治療方針を提示し、患者さんご本人、ご家族と相談の上、最終決定をしています。

特色と主な実績

難聴めまいグループでは、難治性めまいの診断と治療法の開発を行う一方、鼓室形成術数も年間100件以上と全国有数です。鼻咽喉頭グループでは、指定難病である好酸球性副鼻腔炎の手術治療や嚥下改善手術を行っています。頭頸部腫瘍グループでは、頭頸部癌を扱う県内5施設の中心として、再建手術、頭蓋底手術を含む高難度手術を行いながら、化学放射線療法のエビデンス構築にも取り組んでいます。



産科婦人科



診療科長
吉原弘祐

診療科長からのメッセージ

産科婦人科では、幅広い年代の女性の疾患・病態に対する診療を、関連各部署と連携をとりながら行っています（婦人科疾患、産科医療、不妊症、更年期障害など）。また、基礎研究や臨床研究より得られる最新の知見を活かし、診療を行っています。

外来及び入院診療

婦人科、産科、遺伝カウンセリング、不妊・内分泌、女性ヘルスケアといった各種外来診療を行っています。入院では産科・婦人科ともに、主治医グループで診療にあたっています。診療日によって担当医が異なることも

ありますが、グループ内はもちろん、科全体で患者さんの病状や治療方針を共有し、最善の治療を提供できるよう心がけています。関係各部署や各種スタッフとも定期的にカンファレンスを行い、より適切な診療を行っています。

治療方針

治療方針に関しては、科内の多くの医師で検討を行い、最善の治療となるように努めています。検討の場では、各医師が国内外の学会や論文等で得た最新の知見と、これまでの経験に基づく知識を持ち寄って活発な議論をしています。もしご不明な点などございましたら、気軽に担当医にご質問ください。

特色と主な実績

婦人科部門：急速に進歩するゲノム医療に対応し、個々の患者さんに最も適した医療を提供しています。ロボット支援下手術を含め、身体の負担が少ない内視鏡手術

を積極的に導入しています。

産科部門：

合併症のある妊婦さんや、他施設での管理が難しいと考えられる妊婦さんを多く受け入れています。

先天性心疾患など胎児疾患の可能性を妊娠中に評価して、周産期成績の向上に貢献しています。

不妊・内分泌部門：

妊娠を望まれる女性の相談～治療を行っています。

がん生殖外来を開設しており、若年でがんを発症された患者さんの妊孕性温存に尽力しています。

女性ヘルスケア部門：

更年期障害をはじめ、女性に特有な心身にまつわる病気に対して治療・予防を行い、女性の全てのライフステージにおけるQOLの維持・向上を目指しています。



放射線治療科



副診療科長
海津元樹

診療科からのメッセージ

放射線治療は手術、化学療法とともに癌治療の3本柱の1つであり重要な役割を果たします。放射線治療が有効な癌においては体の負担が少なく高い治療効果が期待できます。また、癌に伴う痛みを軽減する緩和治療としても有効です。当科では高精度治療に積極的に取り組み、地域のがん医療に貢献します。

外来及び入院診療

外来診療：平日は連日新患を受け付けております。完全予約制で、主治医の先生からの紹介が必須です。

入院診療：入院での放射線治療が必要な場合には依頼元の診療科と協力して放射線治療を遂行しています。

特殊治療：定位照射、強度変調放射線治療、神経内分泌腫瘍・甲状腺がん・パセドウ病に対する放射性同位元素内用療法や悪性度の高い前立腺癌に対する高線量率組織内照射など、一般病院では困難な治療も対応しています。

治療方針

がん診療に関わる他の診療科と連携・協力しつつ、集学的治療の一環として適切な放射線治療を行っています。放射線治療の方針は常に放射線治療専門医を中心とした検討会で複数のスタッフにより確認され決定しています。また、がん診療専門の院内検討会であるカンサーボードを通じて、他の診療科のがん患者さんについても適切な治療方針を提案しています。

特色と主な実績

当院には高機能の高精度放射線治療装置が導入されており、通常の放射線外照射の他に定位放射線照射（ピンポイント照射）、強度変調放射線治療（IMRT）などの高度治療が積極的に出来る体制を、放射線治療科医師、医学物理士、放射線技師、看護師と共同で施行しています。前立腺癌の他、子宮頸癌についても高線量率組織内照射装置を用いた小線源治療を行える体制を整えて病態に応じた治療選択肢の幅を広げております。



放射線診断科



診療科長
石川浩志

診療科長からのメッセージ

当科ではCTやMRIなどの形態診断、核医学検査（PET-CTなど）における腫瘍や正常構造の機能診断、カテーテルを用いて主に血管内から病変近傍までに近づき診断・治療を行う画像下治療（IVR）を守備範囲とし、診断から治療の幅広い領域を各診療科と協力しながら行っております。

外来及び入院診療

外来診療：主に画像下治療を目的とした患者様の紹介受け入れを新患対応として行っております。

入院診療：画像下治療での入院を当科で担当できる体制を整えております。

治療方針

病院内の各診療科から依頼を受けて、画像診断検査（一般X線検査、超音波、CT、MRI、血管造影及び核医学検査）を行い、診断報告書を作成しています。また体に負担の少ない画像下治療（血管塞栓術、血管拡張術、ステント治療、動注化学療法、CTガイド下生検やドレナージなど）を行っています。

特色と主な実績

画像診断では、CT、MRIやPET-CTなどの機器を利用して、肺、心臓や大血管、中枢神経、肝や脾などの腹部臓器、子宮卵巣や前立腺などの骨盤臓器、骨軟部領域などについて画像診断を行っています。画像下治療では、動脈瘤や出血、動静脈などに対する塞栓術、動脈病変に対する血管拡張術やステント留置術、悪性腫瘍（癌）に対する動注化学療法、CTガイド下生検などを行っています。



麻酔科



診療科長
馬場 洋

診療科長からのメッセージ

麻酔科医の使命は、周術期の全身管理を行い、病気や手術侵襲から皆様を守ることです。様々なモニタリング機器や手技を駆使して、安全かつ不快感の少ない麻酔管理を心がけています。また麻酔薬や鎮痛薬の作用メカニズム、慢性痛の発生と治療に関する基礎研究を行っています。基幹施設として新潟県の医療に貢献して参ります。

外来及び入院診療

外来診療：術前外来（月～金）では、手術を予定された方々の術前診察を行い、それぞれの病状に合わせた麻酔方

法や追加で行うべき検査を提案しています。ペインクリニック外来（月、水、金）では、難治性疼痛でお困りの方々を毎日3名前後の医師が診察しています。

入院診療：ペインクリニック専門医3名が治療を担当します。

特殊診療：手掌多汗症に対する胸腔鏡下交感神経幹焼灼術などを行っています。

治療方針

新潟県内の手術需要は高い状態が続き、待機患者さんにはご迷惑をおかけしております。その方々が少しでも早く手術を受けることができるように、円滑な手術室運営に努めてまいります。また術後の痛みや不快感を軽くすることによって、入院期間を短縮できるように心掛けています。ペインクリニックでは、外来での治療が中心になりますが、必要に応じて短期間の入院加療を

行います。

特色と主な実績

2021年度の麻酔科管理症例数は5614例であり、その内訳は新生児手術や心臓外科手術から、各種がんに対する手術、腎移植手術、高齢者の骨接合術まで、非常に多岐に渡ります。麻酔科医は各自の専門性を生かしつつ、オールラウンドに活躍しています。ペインクリニックでは手掌多汗症手術や、CTガイド下神経ブロックを定期的に行うなど、最新の治療を取り入れています。



救急科



診療科長
西山 慶

診療科長からのメッセージ

救急科は、疾病、外傷、熱傷、中毒、熱中症や低体温症等の急性疾患を個々の診療科に関係なく診療を行い、特に重症な場合には、救命救急処置や集中治療を行うことを専門にしています。また、疾病や外傷の種類や治療の経過に応じて適切な診療科と連携して診療に当たっています。

外来及び入院診療

外来診療：一般外来での診療は行っていません。病院の救急外来で、主に救急車で搬送される患者さんに365日・24時間体制で対応しています。重症患者

さんの診療を優先する為、軽症の患者さんには待つ頂く場合がありますが、ご協力をお願いします。

入院診療：重症と判断された場合は病院中央診療棟4階の高次救命災害治療（高度救命救急）センター、重症でない場合は一般病棟に入院して診療を行っています。

治療方針

重症度と緊急度から治療優先度を決定して、診療を行います。救急外来と高次救命災害治療センターは365日・24時間体制で診療に当たっています。高次救命災害治療センターでは、集中治療部（ICU）の医師と共に、救急科専門医、集中治療専門医、様々な診療科の専門医が中心となり、チームで診療を行っています。緊急に入院されることから、患者さんやご家族への十分な説明に心がけています。

特色と主な実績

重症な救急疾患では、早期に診療を始めれば予後の改善が期待出来ます。一方、新潟県では119番通報から病院収容まで平均40分以上を要しています。この為、早期の救急現場への医療投入を目的に、救急科が主体となって、2012年10月から新潟県ドクターヘリを運行しており、2022年の応需は年間1600件を超え日本第2位となっています。



リハビリテーション科



診療科長
川島寛之

診療科長からのメッセージ

当科にはリハビリテーション学会認定の指導医が1名、専門医が1名在籍しており、科学的根拠に基づいた治療を患者の十分な理解と同意をいただいたうえで行うように努めています。

また当院の各診療科とも連携し、専門性を生かした医療を行うとともに、地域医療機関との連携も積極的に行っています。

外来及び入院診療

当科では入院診療は行っていないものの、他の診療科からのリハ依頼の復券をもらってからのリハ処方箋の作成、

依頼科主治医、医療ソーシャルワーカー、病棟看護師、療法士を交えてのリハカンファレンスの開催等を行っています。また、特徴的な外来診療では厚生労働省政策研究の慢性疼痛診療の協力機関として、1週間に5-10名程度の慢性疼痛患者の外来診療を行っています。

治療方針

当科は県内で唯一の大学病院のリハビリ診療機関で、かつ特定機能病院であることから、新潟市内に限らず、新潟県全体の地域医療、各種疾患、癌、心疾患、呼吸器疾患および難病に対するリハ、介護予防・生活支援などを念頭に入れて活動しています。メディカルスタッフを含めたりハ関連職種 of 医療人の育成、さらには新潟県全体の医療レベルの向上を図るため、新潟リハ研究会、勉強会、研修会の開催等も行っていきます。

特色と主な実績

当科では慢性疼痛患者に対して、2014年から認知行動療法に基づく「いきいきリハビリノート」(図)を用いた運動促進法を



行っています。本法は日本運動器疼痛学会 (<http://www.jamp.so/>) の活動の一環で、2018年に発刊された慢性疼痛治療ガイドラインの「認知行動療法、患者教育をリハビリテーションに導入し、治療に応用することは強く推奨される」に合わせたアプローチです。慢性疼痛患者の年間の延べ診療回数は250件です。

病理診断科



診療科長
梅津 哉

診療科長からのメッセージ

患者さんには病理診断はなじみがないと思いますが、病理診断とは患者さんから採取された細胞や組織を顕微鏡で観察し、どのような病気なのか、どれくらい病気の進展があるのか、などを診断する医療行為です。

外来及び入院診療

病理診断科外来では、病理専門医が患者さんに病理標本を示しながら、病理診断の内容を説明し、患者さんからのご質問にお答えします。

現在治療中の疾患について説明を受けた上で、さらに詳しい病理についての

情報が必要な場合、あるいは実際に自分の疾患の細胞・組織を見たいと希望される患者さんを対象とします。原則予約制です。

治療方針

病理診断により治療方針が変わることもあるため、病態の正確な把握やそれに基づく迅速な対応が必要となります。例えば胃カメラで採取された組織が、胃炎なのか、潰瘍なのか、あるいは癌なのかを、標本を顕微鏡で観察し、診断しています。また、癌の手術で摘出された標本では、癌のタイプや進行度の評価などを行います。これらの標本の説明を丁寧におこないます。

特色と主な実績

病理診断により治療方針が変わることもあるため、病態の正確な把握、迅速な診断を心がけています。常に複数の病理専門医で診断の相互チェックを行

い、診断精度を高めています。年間約8,000件の組織診断、約6,000件の細胞診、約800件の手術中迅速診断、約30例の病理解剖を行っています。一般的な疾患だけでなく、希少な疾患も診断する機会が多く、臨床医との合同検討会も行っています。



医科総合診療科



診療科長からのメッセージ

病気を診て人を診ないといった方向に流されやすい現代医療体制を補完するため、人間全体を癒すという全人的医療の重要性を踏まえて、2002年に医科総合診療部が創設されました。20年目の2021年、病院の診療科として医科総合診療科は新たな歩みを始めました。創立の精神を忘れず診療を行いたいと思います。

外来及び入院診療

外来診察は月曜から金曜の午前中で毎日行っております（現在は水曜日は休診）。総合診療科では、他のどの専門外

来を受診すべきか不明な患者さんや紹介状を持っていない患者さんを中心とした対応を行います。また、不要な受診や通院による不利益を回避するために、診察受付をする前に患者さんのお話を伺い、当院受診以外のより良い方法のアドバイスを行う場合もあります。総合診療科は外来診察のみであり、救急対応は行っておりません。

治療方針

他の専門外来に比べて再来予約患者数を抑えてあり、時間的な余裕を持つての対応が可能です。従って、初診の患者さんの場合、受診に至るまでの経緯などのお話をしっかり聞いた上で、必要と判断される検査や他の専門外来受診を行って頂きます。その後は、ある程度の診断や治療方針が確立するまで通院し、その後は病気の状況に相応しい診療科や他の医療機関などに紹介することとなります。当科での定期通院

は、原則ご遠慮ください。

特色と主な実績

体のどの部分の異常なのかが判断しづらい自覚症状や漠然とした症状を持つ患者さんの受診が多いことが一つの特徴です。重要な体の異常が存在せず、どちらかと言えば精神的・社会的な問題を抱えた患者さんも多い一方、リウマチや膠原病、悪性腫瘍、慢性に経過する脳内の血管性病気など放置できない場合も存在します。また、一般診断書の他に、中国などへ渡航する場合に必要な特殊な診断書の作成も受け付けています。

口腔再建外科



診療室長
小林正治

診療科長からのメッセージ

口腔再建外科では、口腔がんや顎変形症、口唇口蓋裂、外傷、睡眠呼吸障害など顎顔面領域の多様な疾患を対象として、関連各科と連携を取りながら診断・治療を行っています。また、先端医療の研究開発を進めるとともに、地域住民や医師・歯科医師から求められる質の高い医療を提供していきたいと考えています。

外来及び入院診療

外来診療：初めての診察は予約を取っていただくとスムーズに診療が進みます。予約のない方でも月曜から金曜ま

で新患、あるいは急患担当が最初に対応し、担当医を決めさせていただきま。診察は口腔外科指導医・専門医・認定医を中心に治療を進めていきます。入院診療：週2日、中央手術室で手術を行います。治療方針は診療科全体で検討を行い、一人の患者さんの治療に担当チームを決めて治療に当たります。

治療方針

当科は多くの患者さんが地域医療機関の紹介により来院されることから、病診連携をとりながら口腔外科指導医・専門医を中心として高度な医療を丁寧な説明のもとに提供することを常に心がけています。安心で安全な医療を提供するため、十分な説明を行い、納得して治療をうけていただけるように努めています。また疾患を総合的に診断・治療するため他の診療科とも協力して診療を行います。

特色と主な実績

顎変形症、口腔粘膜疾患・口腔がん・睡眠時無呼吸症などの治療に力を入れています。矯正歯科医と連携した顎変形症に対する外科的矯正治療は、本邦有数の手術件数となっています。口腔がんは日本がん治療認定医機構がん治療認定医（歯科口腔外科）を中心に各診療科と連携し治療を行っています。睡眠時無呼吸症に対して睡眠時の呼吸状態や顎顔面形態の分析結果をもとに口腔内装置や顎骨の位置を移動させる外科的治療を行っています。



顎顔面口腔外科



診療室長
富原 圭

診療科長からのメッセージ

当科は口腔疾患に対する高度専門医療として、口腔腫瘍、口腔先天異常、顎変形症、顎関節疾患などに対する外科治療の他、難治性の口腔粘膜疾患や顎口腔領域の炎症性疾患に対する口腔内科的治療までを幅広く担当し、関連する診療科と連携のもと、診断から根本治療、さらにその後の口腔機能回復までを行います。

外来及び入院診療

外来診療：火曜と金曜、偶数週月曜の初診の患者さんを担当。再来の患者さんは毎日（午前8時30分～午後4時00

分）。

入院診療：全身麻酔下での手術（あらゆる口腔外科疾患）および入院管理が必要な治療（顎骨骨折や歯性炎症）に対し、口腔外科学会指導医のもと、専門医や認定医が中心に対応いたします。特殊治療：培養骨膜併用顎骨再生とHotz床併用二段階口蓋形成法などがあります。

治療方針

口腔疾患は、その発生部位の解剖学的特徴から、外科治療においては口腔機能が大きく損なわれることもあり、当科では口腔機能回復や口腔機能温存を目指した治療を心がけています。具体的には、外科的欠損部位に対する口腔インプラントや顎顔面補綴治療など他診療科との積極的な診療連携による治療や、適応を判断し非外科治療も積極的に取り入れることによって、患者QOLの維持・改善を目指します。

特色と主な実績

進行した口腔がんに対して、従来の治療法に加え、分子標的薬や免疫治療薬を用いた新規治療法を取り入れております。また、本院の口唇裂・口蓋裂診療チームとして、Hotz床併用二段階口蓋形成法を適用し、長期にわたる良好な経過を報告しています。さらに、歯槽骨・顎骨欠損に対し、患者さんご本人から採取した顎骨の骨膜から作製した培養自家骨膜を応用した再生医療を行っています。



歯科放射線科



診療室長
林 孝文

診療科長からのメッセージ

歯科放射線科では、歯・口腔や顎の画像診断（MRIやCT、超音波診断など）と、放射線治療患者さんの口腔管理の二本柱で診療を行っています。どちらも、高度で専門的な知識や技能が必要となり、放射線治療を含めた診療の全般に精通していなければなりません。確実な診断と適切な管理で最良のサービスを提供できるよう、スタッフは一人丸となって日々研鑽を積んでいます。

外来及び入院診療

歯科放射線科の診療は、画像診断と口腔管理外来から構成されています。画

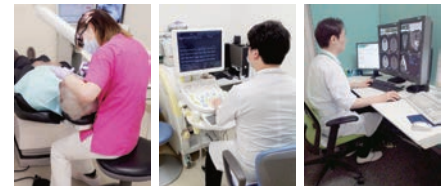
像診断では、歯科の各診療科から診断依頼のあった単純X線画像、CT、MRIを診断するとともに、撮影依頼のあった歯科用コーンビームCT、超音波診断について検査と診断を行っています。また口腔管理外来では、医療連携口腔管理チーム一員として放射線治療・化学療法、術前・術中・術後における口腔内の管理を行っています。

治療方針

画像診断では、口腔内から顎顔面頸部領域にかけての炎症・外傷・腫瘍など、歯科領域における幅広く多様な疾患について、精密で正確かつ治療に役立つ情報を提供する診断を心がけるとともに、偶然撮影された他疾患の有無についても細心の注意を払っています。口腔管理外来では、歯科医師としての技能を生かし、放射線治療に対しての口腔内有害事象の抑制につながるマウスピースの作成も行っています。

特色と主な実績

画像検査数は年々増加しており、これに対応するために豊富な経験を有する歯科放射線専門医が診断を行っています。昨年度の実績は総計3,412件（単純X線205件、CT1,660件、MRI171件、歯科用コーンビームCT 317件、超音波断層撮影1,059件）の画像診断を行っています。また、口腔管理外来について昨年度のべ3,673件の診療を行っており、医科歯科連携に貢献しています。



歯科麻酔科



診療室長
瀬尾 憲司

診療科長からのメッセージ

歯科麻酔科では、顔や口の中に生じた痛みやしびれなどの不快な症状を高度な技術で診断し治療を行うペインクリニックを行っております。また、様々な医学的理由により通常の歯科治療に苦痛を感じる方には、安心して歯科治療を受けられるように、全身管理を行いますので、不安な方はご相談ください。

外来及び入院診療

外来診療は新患受付と手術前の術前診察日を、水曜日と金曜日にしております。完全予約制ですが必要な方はあらかじめ連絡ください。また痛みなど

の特殊な治療を受けたい場合には、火曜日または木曜日に受け付けておりますので、受診される際にはこちらからあらかじめご連絡ください。歯科治療の鎮静管理については、対応する診療科との打ち合わせが必須となるため、多少のお時間を頂くことがあります。

治療方針

痛みは様々な原因で発生しますが、外見的に腫れなどの明らかな病変がないことが多いものです。その原因はわかり難いことがあります。それを突き止めるためには様々な検査を行います。治療には時間がかかることがありますが、痛みを感じることがなくなることを目標として、日常生活に復帰できることを目指します。また恐怖感などで歯科治療を受けにくい方には、全身麻酔なども利用して、安全な治療を行います。

特色と主な実績

あごの骨の中にある神経は傷ついてもレントゲンで判明が困難です。そこでMRIによる独自の方法で診断します。この方法は当科の他は日本国内でもわずかな施設でしか行われていません。これによって明確となった神経損傷とその病変に対して行う外科的治療は国内でも有数な治療経験を有しております。三叉神経損傷の診療ガイドライン作成の中心的メンバーとしての経緯から、総合的に判断して最も適切な治療方法を選択します。



神経が傷ついたこと
によって生じた病変
下歯槽神経

小児歯科・障がい者歯科



診療室長
早崎治明

診療科長からのメッセージ

小児歯科・障がい者歯科は、地域のお子さんや障がいを有する患者さんのお口にかかわる問題の診療、支援を行っております。お口の問題は、むし歯や歯周病だけでなく多岐にわたりますが、患者さんにとって最も必要で、かつ質の高い診療を行うよう心がけ、地域医療の向上の寄与に努めています。

外来及び入院診療

外来診療：月曜日から金曜日まで午前・午後ともに外来担当医と歯科衛生士で診療に当たります。

お子さんや障がいのある患者さんのお

口にかかわること全般についての専門診療科です。歯科治療時のストレスが大きい場合、医科および歯科麻酔科等、院内専門診療科と密に連携をとりながら全身麻酔または静脈内鎮静法を併用するなど、安全で確実な歯科医療を提供しています。

治療方針

当診療科では、虫歯や歯周病のみならず、お口や歯のけが、歯の生え方、さらには食べる・話すなどのお口の機能についてなど、お口の健康に関わるさまざまな相談・治療を行っています。患者さんの治療方針は専門医指導医のもと、カンファレンスで検討され、他科専門診療科とも密に連携をとり、多くの選択肢の中から患者さんの状態に応じた最も適切な治療方針を提案し、患者さんと相談しながら診療を進めてまいります。

特色と主な実績

当診療科では、日本小児歯科学会および日本障害者歯科学会の専門医指導医・専門医・認定医・認定歯科衛生士が常駐し、患者さんに適切な環境を整え、高度な診療を行っています。第三次医療機関として、県内各地および県外からも地域での診療が困難な患者さんが多数紹介来院されています。障がいのある方や低年齢の患者さんの全身麻酔症例は年間60例あり、治療終了後は地域と連携していくことで地域医療の充実化を図っています。



矯正歯科



診療室長
齋藤 功

診療科長からのメッセージ

矯正歯科治療は子供さんが対象であると考えられてきました。しかし人口構造の変化に伴い成人患者さんの割合は30%を上回っています。成人はお口の中が複雑化しているため口腔外科、歯周病科など関連診療科と連携し適切な治療を提供しています。歯並び・かみ合わせやお口について気になる方は年齢を問わずご相談ください。

外来及び入院診療

外来診療：毎日午前・午後（午前は9時～12時、午後は13時～16時。但し、火曜午後は13時～18時30分、木曜午後

は13時～14時30分）に診療を行っております。新患の患者様につきましても、平日午前（9時～11時30分）・午後（13時～15時30分）とも受診可能です。直近5年間の新規登録患者数は平均250名、延べ患者数は約12,200名となっています。

治療方針

当診療科では、歯並びの乱れやかみ合わせのずれの改善はもとよりそれぞれの患者さんにとって調和のとれた口元や顔貌の獲得に重点を置き治療を提供しています。矯正歯科治療によりむし歯や歯周疾患に罹りにくくなるだけではなく、発音、咀嚼、嚥下など機能面の改善が期待できます。治療するにあたっては、必要かつ十分な診察・検査を行い、科内検討会、教授診断により、それぞれの方にふさわしい治療方針の立案に努めています。

特色と主な実績

口唇裂・口蓋裂には口腔外科、形成外科、耳鼻科、言語治療室などと連携し出生時から成人に至るまで一貫した集学的治療を提供します。また、顎変形症に対しては、口腔外科と連携し顎の手術と歯列矯正を組み合わせた外科的矯正治療を行います。顎変形症あるいは厚生労働大臣が定める口唇裂・口蓋裂や「6歯以上の先天性部分（性）無歯症」を含む61の疾患に対する矯正歯科治療には健康保険が適用され、約25%の方が該当しています。



予防歯科



診療室長
小川祐司

診療科長からのメッセージ

当科では、むし歯や歯周病などになってからの「キュア」（治療）ではなく、ならないようにする「ケア」を大切にしています。お口の健康を積極的に守るため、先進技術を用いた「プロフェッショナルケア」と、歯科医や歯科衛生士の指導に基づいたご自身での「セルフケア」の両立で、充実した予防歯科の実践を提供しています。

外来及び入院診療

診療日時：祝祭日を除く月曜～金曜の午前9時～午後4時。再来は予約制、新来と急患は随時受付。

専門外来としての口臭治療は、再来は予約制、新来は原則火曜・木曜の午前受付。

日本口腔衛生学会認定医研修機関で、指導医・専門医・認定医が在籍し、専門性を担保した質の高い診療を提供しています。

治療方針

定期健診としての「メンテナンス」を通じて、疾患の予防や再発防止を目指します。患者さん毎の特性に応じて疾患リスクに基づいた「テーラーメイド型」のメンテナンスを提供しています。更に、口の中の細菌数の確認や食指導を含めたむし歯予防管理システムも利用できます。小児に対しては、フッ化物応用を積極的に取り入れ、効果的なむし歯予防を実践しています。また、ガスクロマトグラフィによる口臭測定を行っています。

特色と主な実績

当科は、糖尿病・生活習慣病教室や口蓋裂診療班にも参画し、お口の健康のみならず全身の健康維持にも貢献しています。長期にわたりメンテナンスを受けられた患者さんは、80歳で20年以上の歯を維持されており、豊かな食生活を通じて充実したクオリティオブライフ（QOL）を実現しています。

お口の健康を保ちながら充実した日常生活を送るために、予防歯科をぜひご活用ください。



歯周病科



診療室長
多部田康一

診療科長からのメッセージ

歯周病は国民病とも呼ばれるほど多くの人が罹患する疾患であり、成人が歯を失う主な原因です。当科は、歯周病の治療・予防についての専門診療科として、先端的研究を臨床にフィードバックしながら、専門的知識と技術が必要とされる歯周病治療を患者様に提供します。

外来及び入院診療

診療日・時間：月～金曜日、午前9時～午後4時、予約制。

但し、新患および急患は、診療時間中に随時対応します。

診療体制：担当医制となります。

日本歯周病学会が認定する歯周病指導医、専門医、認定医および認定衛生士が在籍しており、専門知識と技術を要する高度歯周病治療を実施する体制を整えております。

治療方針

患者様一人ひとりのお口の状況について、専門的知識に基づいた十分な検査と診断を行い、エビデンスに基づいた、高水準の歯周病治療を提供いたします。また、治療により改善した状態を長期にわたり維持するためのメンテナンス治療を重要と考えて取り組みます。昨今、口腔感染症である歯周病と様々な全身疾患との関連がますます注目されています。全身の健康増進に寄与するべく、口腔内感染のコントロールを行います。

特色と主な実績

日本歯周病学会が認定する歯周病指導医、専門医、認定医および認定衛生士が多数在籍しており、専門知識と技術を要する高度歯周病治療を実施する体制を整えております。

全国に先駆けた歯科領域における細胞治療として、自己の培養骨膜シートを用いた歯周組織再生法の研究開発を行ってきました。現在、この成果は自由診療において顎骨・歯槽骨の再生療法として提供されております。

歯周病にかかった口腔内



- 歯肉の炎症
(腫れ・出血)
- 歯石
(石灰化したプラーク)
- プラーク
(細菌の集合体)

歯の診療科



診療室長

野杓由一郎

診療科長からのメッセージ

歯科治療の根幹をなす領域（歯を保存する部門）の治療を行っています。治療のコンセプトは、歯を保存し、“Quality of life (QOL)” に配慮した歯の機能を維持することです。最先端・最新鋭の機器を駆使し、より正確で客観的な診断と治療を心がけて診療にあたっています。

外来及び入院診療

歯の診療科は「歯の保存治療」とされる3つの治療分野の中で、主に保存修復と歯内療法を専門とする診療科です。診療科員15名中、日本歯科保存学会：

指導医4名、専門医6名、認定医3名、日本歯内療法学会：専門医1名が診療を行っています。特徴のある設備として歯科診療ユニット7台全てに、歯科用顕微鏡が配備されており、拡大された視野を術者に提供し診療の質の向上に寄与しています。

治療方針

当科の診療のスローガンは、“科学的根拠に基づいた歯科診療（EBD）の実践を目指して”です。その一環として、当科が主体となり歯科臨床のエビデンスを構築するため、9件の倫理委員会承認の臨床研究（例：根面う蝕の病因の解明とう蝕・リスク診断法の開発、根尖性歯周炎における根尖病変の治療促進を目的とした高周波根尖療法に関する臨床試験等）を実施中です。（含医歯学連携研究2件）

特色と主な実績

歯の診療科の専門とする診療は、一般歯科診療所の通常歯科診療（むし歯の治療、歯の神経や根の治療、ホワイトニング等）と多くは重なっています。他方で、少数精鋭ながら、専門性と先端性の高い先進医療を充実し実践しています。その結果、地域の歯科診療所からの紹介患者数は2022年度で153名あり、地域歯科診療所と大学病院歯科（地域中核病院）との地域医療連携の一翼を担っています。



冠・ブリッジ診療科



診療室長

魚島勝美

診療科長からのメッセージ

当診療科は歯に冠を被せる治療を基本としていますが、私たちは単に個々の歯の治療だけではなく、お口の中全体を診て、少しでも多くの歯で長く咬むことができる状態を確保できることを目指しています。慎重な治療計画の立案と丁寧な説明を心がけていますので、何なりとお気軽にご相談ください。

外来及び入院診療

外来診療：毎日午前・午後に日本補綴歯科学会指導医2名、専門医2名を含む18名の歯科医師が診療にあたっています。

特殊診療：特色ある専門外来として、歯科金属アレルギー外来、歯根破折外来を開設し、診療を行っています。その他にもインプラントや義歯による治療も行っています。

治療方針

冠・ブリッジ診療科では、歯の一部を失った場合に、冠やブリッジ等を入れる治療を行っています。歯がなくなった部分には、部分入れ歯や総入れ歯といった治療も行い、インプラントを用いた治療も行っています。また、金属アレルギー外来では、皮膚科と連携して歯科金属アレルギーに関する診断、治療も行っています。さらに、歯の根が割れてしまった場合には通常抜歯となりますが、そのような歯の再植保存も手がけています。

特色と主な実績

歯根破折外来では、10年以上前から、

縦にひびが入るか、割れてしまった歯根を一度抜歯して、接着剤で元通りに修復し、再度元の位置に植え直す処置を行っています。これまでのところ、このように治療した歯は3年経過後に約8割、5年経過後に約7割使えています。もちろん、このような対応ができない場合もありますが、エックス線撮影等の検査によってその可能性はある程度判断できますので、是非ご相談ください。



義歯診療科



診療室長
堀 一浩

診療科長からのメッセージ

最近、高齢期の健康維持、特にフレイル（虚弱）予防の観点から、食べる、しゃべると言ってお口の機能がますます重視されています。歯を失った方に、健康で楽しい生活を取り戻していただくために、義歯（入れ歯）はとても有効な人工臓器です。義歯診療科では、一人一人の患者さんに合ったよりよい義歯を提供します。

外来及び入院診療

外来診療：月曜日から金曜日まですべての日に再来を受け付けています。新来は冠・ブリッジ診療科と交代で隔日

に行っています。

特色ある治療：通常の義歯以外に、腫瘍や外傷などで顎や舌の一部を失った方、脳卒中や神経疾患で舌の動きが悪くなった方が、食べやすく、しゃべりやすくなるための特殊な装置を作って、リハビリテーションをサポートします（顎顔面補綴外来）。

治療方針

当科の診療は、義歯などを用いて食べる・話すことをはじめとする、お口の「機能」を回復することに主眼を置いています。特に食べる機能（咀嚼、嚥下）を客観的に数値で評価するシステムを運用して、診断と治療効果の判定を行っています。

治療にあたっては、患者さんの希望をうかがいながら十分な診査を行った上で、お口の状態や必要な治療を丁寧にご説明し、患者さんに安心して治療を受けていただけるように努めています。

特色と主な実績

『顎顔面補綴外来』では、腫瘍などであごや舌の一部を失った方の機能を回復するため特殊な装置（顎義歯、舌接触補助床、軟口蓋挙上装置など）を製作し、咀嚼（かむ）、嚥下（のみこむ）、構音（話す）機能の総合的なリハビリテーションを行っています。令和4年度は30名の患者様に機能回復のための特殊な装置を製作しました。



口腔リハビリテーション科



診療室長
井上 誠

診療科長からのメッセージ

当科では、「噛む」「飲み込む」などの問題を解決することで「食」を通した健康の維持・改善を図ります。「食べにくい」「飲み込みにくい」「むせる」といった摂食嚥下障害や、「口が乾く（ドライマウス）」「味が分かりにくい（味覚障害）」などの症状があれば、その原因を突き止めて、適切な治療を行います。

外来及び入院診療

摂食嚥下リハビリテーション外来では、月曜日から金曜日の午前・午後を担当歯科医師が診療にあたります。くちの

かわき・味覚外来は完全予約制となっています。お電話で予約をお取りください。

治療方針

摂食嚥下障害に対しては、必要に応じて嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査などを行い、歯科治療だけでなく、訓練、食形態の変更、食事指導などのリハビリテーションを行っていきます。ドライマウスに対しては唾液検査、味覚障害に対しては味覚検査を行い、問題の原因を突き止めた上で治療を行います。

特色と主な実績

当院における摂食嚥下障害新患数は年間400名以上、ドライマウス・味覚障害患者新患数は年間100名以上におよびます。摂食嚥下障害やドライマウス、味覚障害の主な原因疾患は、脳血管疾患や神経難病などの脳神経内科系疾患、頭頸部腫瘍など多岐にわたり、年齢層

も幅が広いことから、それぞれの状態に応じた検査や治療を行います。また、必要に応じて他の診療科との連携を行い、患者さんに対して最善の医療を提供しています。



歯科総合診療科



診療室長
藤井規孝

診療科長からのメッセージ

歯科総合診療科は歯学部歯学科臨床実習および医歯学総合病院歯科医師臨床研修の管理運営を担当する臨床教育部門です。本学／本院の歯科臨床教育は診療参加型・on the job trainingを基本としており、学生や研修歯科医は多くの方々のご協力に支えられて貴重な学修を行っています。

外来及び入院診療

歯科系各専門診療科の指導教員や臨床研修を指導する指導歯科医の下、学生や研修歯科医が担当医の一人としてあるいは担当医として患者さんの一般歯

科治療を行っています。他にも紹介状をお持ちでない初診患者さんにお話しをうかがって治療を担当する専門診療科へご案内する予診業務や歯科総合診療科スタッフによる一般歯科治療も行われています。

治療方針

臨床実習や臨床研修へのご協力は、予診で内容をご説明申し上げ、ご協力いただくことに同意なされた患者さんをお願いしています。治療方針・計画は指導教員や指導歯科医と担当させていただく学生や研修歯科医が相談して立案しています。難しい治療や高度な技術を要する内容については、指導教員や指導歯科医が直接、あるいは歯科系専門診療科に依頼するなど院内での連携を図っています。

特色と主な実績

診療参加型臨床実習・臨床研修は良質な歯科医療を提供することができる歯科医師を育成するために必要不可欠で、文部科学省や厚生労働省も充実を図るために様々な施策を行っています。本学／本院の歯科臨床教育体制は高い評価を得ており、毎年50名弱の学生と20数名の単独型プログラム研修歯科医が臨床実習、臨床研修を修了しています。





検査部

臨床検査室の品質と技能に関する国際規格ISO15189認定のもとに、高度先進医療を担う大学病院の医療チームの一員として年間440万件の検査を実施しております。



体制と運営方針

診療科より依頼される様々な検査のニーズに対応するため、検体検査部門・生体検査部門・生物検査部門の3部門を設置し、業務を分担しています。チーム医療として、外来採血を担当し、院内感染対策、栄養管理サポート、糖尿病・生活習慣病教室および治験等の活動にも関わっています。特定機能病院の責務として、医療安全に配慮しつつ、品質の保証された結果報告を行い、ISO15189規格に準拠した臨床検査業務に努めています。

業務内容

検体検査部門では血液や尿などを対象に検査を行います。検査項目は多岐にわたり大量の検体を迅速に測定・報告するため、自動化と厳密な精度管理体制を構築しています。生体検査部門は心電図・呼吸機能・超音波検査などを担当します。生物検査部門では微生物検査や遺伝子検査を実施します。感染管理部と連携し、迅速な遺伝子検査の実施により当院の高度医療を支えています。いずれの部門も専門資格をもつ技師が対応しています。

放射線部

放射線部では、画像をもとにした診断や治療を全身に渡って行い診療内容も多岐にわたっています。最新鋭の装置を用いてチームで診療を行っています。



体制と運営方針

放射線部長、副部長のもと、放射線診断医、放射線治療医、診療放射線技師、看護師、臨床工学技士、医学物理士、事務職員が強力なチームを組み診療に当たっています。病院の目標である、高度で先進的な医療の実践の一翼を担い診療科に貢献をしています。各診療科とは、カンサーボードを始めとする会議を多数行うことで連携を密にしており、また放射線部内では職種を超えた会議を定期的に持ちシームレスに連携が取れる体制を構築しています。

業務内容

放射線部の業務は大きく画像診断と放射線治療に分かれます。画像診断では最新鋭の装置を使用した撮影や画像誘導下でカテーテルを使った手術、ラジオアイソトープを用いた核医学があり、得た画像に対して画像診断レポートが作成され主治医に報告が行われています。放射線治療では、高精度な強度変調放射線治療や定位置放射線治療などが行われて成績を上げています。また子宮頸癌や前立腺癌に対する高線量率や甲状腺癌に対するヨード内服療法など特殊な治療も行われています。

手術部

高難度手術、ハイリスク手術、先進医療に対応し、患者さんへ安全で最良の手術医療を提供するとともに、効率的な手術運営で年間8,800件を超える手術を行っています。



体制と運営方針

当手術部は、中央診療棟2階に5つの手術室、メインの3階に10の手術室とクリーンサプライを配置した2階建て全15室の構造となっており、年間約8,800件超の手術に対応しています。周術期認定看護師を含む看護師が57名、臨床工学士は5名以上、薬剤師1名、放射線技師1名が常駐しています。オペラマスターを導入し、手術室稼働率、手術部職員の勤務状況などを多角的に検討し、効率化を図り経営改善を行っています。

業務内容

ロボット支援手術（ダ・ヴィンチ）、4K/3D内視鏡手術など最新の医療機器を使用した手術に加え、待望のハイブリッド手術室が完成し、2020年4月から稼働を開始しております。また、当院は高次救命救急センターを有しており、地域医療の最後の砦として、ハイリスク症例や高難度手術に対応しています。変わりゆく手術医療に対応できるように周術期チームとして日々アップデートを重ね、安全安心な周術期医療の遂行を目指します。

高次救命災害治療センター

2009年10月から日本海側で最初の高度救命救急センターとして稼働を開始しました。当救命救急センターは新潟県における救急医療の「最後の砦」の役割を担っています。



体制と運営方針

本年度、病床およびERの拡張を行い、中央診療棟4階に集中治療病床12床と救急救命病床16床、中央診療棟1階にERに隣接する形でハイケアユニット病床4床を備え、救急科専門医や集中治療専門医を主体に様々な診療科の専門医、更に薬剤師、理学療法士が加わり、チームとなって集学的治療を展開しています。センター内に少なくとも医師3名が常駐し、患者1名に対して看護師2～4名以上の体制で診療に当たっています。

業務内容

主に、救急車で来院される方、ドクターヘリ等で搬送される方に対応しています。様々な生体情報モニターと呼吸や循環の臓器補助装置を用いて、急変を速やかに発見、適切に対応することにより、早期の病態の回復を目指しています。

造血・免疫細胞療法センター

本院での同種造血幹細胞移植治療（骨髄移植、末梢血幹細胞移植または臍帯血移植）とCAR-T療法を管理しています。



体制と運営方針

造血細胞移植センターとして、造血幹細胞移植を専門とした医師を中心に、HCTC（造血細胞移植コーディネーター）、LTFU（造血幹細胞移植長期フォローアップ）認定看護師と連携し、難治性造血器腫瘍や小児悪性腫瘍の根治を目指します。また本院は新しい免疫細胞療法であるCAR-T療法の県内唯一の実施施設であり、県内外の施設からの紹介に対応し、治療適応の検討から実施後のフォローまでを行っています。

業務内容

多職種連携を行いつつ、患者さん一人一人に適した移植治療を提供しています。HCTCはドナーコーディネートから移植の実施まで一貫した支援を行い、LTFU看護師による造血幹細胞移植後療養外来では患者さんの長期的な生活をサポートします。日本骨髄バンクを介した骨髄採取、末梢血幹細胞採取、ドナーリンパ球採取なども行っています。またCAR-T療法の円滑な実施のため各診療科・部門との調整、管理を担っています。

総合リハビリテーションセンター

総合リハビリテーションセンターは、患者の尊厳を重んじ、生活の質の向上と家庭・社会への復帰を目指し、質の高い医療を提供します。



体制と運営方針

リハビリテーション科医師、呼吸器・感染症内科医師、口腔リハビリテーション科歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士等、多職種によって運動器、脳血管、心大血管、呼吸、がんなどの疾患別リハを行い、口腔リハビリテーション科歯科医師、言語聴覚士、歯科衛生士により摂食機能療法を行っています。

業務内容

患者さんの身体状況、障害状況、社会的背景をそれぞれの職種が評価をし、それをもとにカンファレンスを開催し、患者さん個々に応じた目標設定をし、各職種が目標に向かってリハを実施していきます。チーム内で進捗状況を確認し、状態の変化に合わせ、必要時には目標を見直しながら実施しています。急性期の患者が多いため、医師・看護師の医学管理は必須で、年に1度は患者の急変に対応出来るよう、全員で訓練もしくはビデオ研修会を行っています。

物流センター

院内全体で使用する医療材料、鋼製小物などの医療器材、医療機器、ベッド、リネンなどを中央管理し、診療に関わる物品全般の供給を担当する部門です。



体制と運営方針

物流センターは医療材料、滅菌、ME、リネン、ベッド洗浄の5部門で構成されます。医療材料部門は約1,000品目を有する中央倉庫を運営しており、物品管理の効率化と適正な在庫量維持により病院運営に貢献しています。また滅菌部門では一般医療器材のほか全手術器材と歯科外来器材の洗浄、セット、滅菌を一元管理しています。物流センターは安心、安全、確実な器材の供給を使命として、感染対策上重要な役割を担っています。

業務内容

医療材料部門では点滴作業台の交換や、定数管理品の補充、採血セット、蘇生バッグセットの供給など、日々の業務に使用する消耗品の払出しを行います。滅菌部門では回収された器材を最新型の全自動洗浄装置と3種類の滅菌装置を用いて適切に処理します。滅菌の質保証のための工程管理、ICタグを用いた手術履歴管理など安全にも十分配慮しています。物流センターは日常の診療を支える縁の下の力持ちとして毎日業務しています。

総合周産期母子医療センター

母体胎児集中治療室（MFICU 6床）新生児集中治療室（NICU 9床、GCU 12床）を備え、年間約500件の分娩、約200件の新生児集中管理を行っています。



体制と運営方針

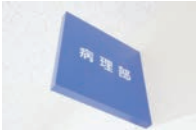
周産期専門医を中心とした産婦人科及び小児科医師、助産師、看護師、薬剤師、胚培養士、公認心理師、入院児支援コーディネーターなどが連携し、各種合併症妊産婦、胎児を対象とした産科部門、集中治療を要する児を対象とした新生児部門を運営しています。“安心安全なお産”、赤ちゃんと家族のための“family centered care”を提供するために、昼夜を問わず、母体や胎児、新生児、家族のケアに努めます。

業務内容

産科部門は、妊産婦管理や分娩管理以外に、出生前診断、不妊症の診療、不育症に対する免疫的アプローチ、予防的治療、胎児治療など専門的な診療を提供しています。新生児部門は、早産児や低出生体重児に加えて、先天性心疾患などの合併症を有する児に対し、専門科と連携しながら高度医療機器を用いた集中治療を行っています。また、新生児蘇生法の普及活動や児の発育発達支援など、周産期全般に切れ目のない支援を提供しています。

病理部（医科担当）

病理部は臨床各科で採取された組織や細胞、手術標本から顕微鏡標本を作製し、鏡顕し、診断を行う部署です。手術中の迅速診断、病理解剖も行います。



体制と運営方針

病理部所属病理医が、医学部臨床病理学分野、脳研究所病理学分野、歯学部口腔病理学分野と協力して病理診断業務を行っています。また、専任臨床検査技師7名で（細胞検査士4名）、組織標本作成、細胞診、剖検補助にあたっています。

病理部職員は直接患者さんと接する機会はありませんが、患者さんが安心して質の高い医療を受けられるよう、臨床各科と緊密に連携しながら、正確で迅速な病理診断に努めています。

業務内容

年間約8,000件の組織診断、6,000件の細胞診断、800件の手術中迅速診断（組織500、細胞診300）、30例の病理解剖などを担当しています。

通常組織標本にはHE染色、細胞診標本にはパピニコロウ染色が行われます。必要に応じて、グラム染色などの特殊染色、様々な物質を特定する免疫染色、DNAなどを検出するin situ hybridizationも行っています。

集中治療部

大手術の術後・敗血症・呼吸不全などで重篤な状態となった患者さんに対し、多部門のエキスパートが協力して高度な集学的治療を行う部門です。



体制と運営方針

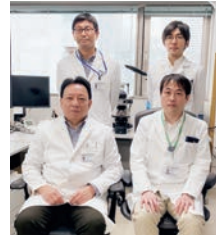
集中治療専門医を含む重症患者管理に習熟した医師が24時間体制で勤務しており、主治医チームと協力して治療にあたります。また、患者2名に対して看護師1名以上を配置することで細やかな看護を提供しています。2021年に12床に病床を拡張し、一般病棟では行うことのできない高度な治療を提供するだけでなく、患者さん本位の、安全管理や倫理的側面からも質の高い医療を提供できるように努めています。

業務内容

当部門には内科系・外科系を問わず、新生児から高齢者まで多様な患者さんが入室します。最良の結果を提供するためには常に患者さんの状態を把握し、臓器系統別に管理方針を立案し、エビデンスに基づく質の高い治療を適切なタイミングで行わなくてはなりません。このような集中治療を実現するために、医師・看護師だけでなく理学療法士、臨床工学技士、栄養士、薬剤師など多くの専門職が治療方針を共有して診療にあたっています。

病理部（歯科担当）

平成5年6月に歯学部附属病院に病理検査室が設置されたのが始まりです。平成30年10月に病理部（医科担当）との統合後も、病理部内にて病理診断業務を行っています。



体制と運営方針

口腔病理学分野の臨床業務をおこなう拠点として、歯科病理検査室が医歯学総合病院内に開設されています。医歯学総合研究科口腔病理学分野所属の先生とともに、口腔病理専門医、細胞診専門医、及び分子病理専門医の資格をもつ歯科医師を中心とした4名が、主に歯科診療各科で取り扱う炎症から嚢胞や腫瘍までの様々な疾患について、診断等を担当しています。多面的な科学的根拠を蓄積して精度の高い病理診断を実践することを目指しています。

業務内容

歯科診療各科に特化した病理業務を担当しています。細胞診・組織診のほかに、手術中の迅速診断や剖検も担当します。治療方針の決定から治療効果判定までに必要な口腔病理診断業務を担って、「科学的根拠にもとづいた歯科医療」に貢献すべく日々努力しています。また歯学部学生の教育も担当し、「病理診断のオーダーができる歯科医師」を育成するために病理学臨床実習の場としても機能しています。

血液浄化療法部

血液浄化療法部は腎臓病患者さんに行われる血液透析をはじめ、腹膜透析、血漿交換、血液吸着療法など多彩な血液浄化療法を担当します。



体制と運営方針

血液浄化療法部は14床で年間5,000件以上の血液浄化と30-40名の腹膜透析患者の診療を看護師、臨床工学技士、医師など多職種で連携して診療します。患者さんに安心・安全で質の高い血液浄化療法を提供します。

業務内容

血液透析（血液透析濾過）：慢性透析では関連施設から紹介された患者さんが安定して透析療法を行えるようきめ細かな管理を行います。また透析導入は患者さんが安心して治療できるよう丁寧に説明して行います。腹膜透析は外来診療と腹膜機能検査などにより安定した透析療法と合併症対策に努めます。透析療法の選択にあたり療法指導外来で腎臓病、各種透析療法の説明を行い、患者さんと一緒に最適な透析療法を決定します。

医療情報部

高度に情報化された特定機能病院において円滑に診療を進めるため、医療情報の管理、個人情報の保護、および適切な情報利用の推進などを行っています。



体制と運営方針

部長・副部長の下に、電算機室、入院／外来病歴室および入院／外来スキャンセンターが設置されています。

さらに、当部付きで各診療科に医師事務作業補助者が配置されています。

診療情報が全て電子化される当院において、診療が安全かつ円滑に行えるように情報環境を整備することを通じて、病院全体の機能を維持・向上させることが責務です。

業務内容

電算機室は、総合医療情報システムを管理・運用し、情報解析を行っています。病歴室は、診療録の内容の監査、整理および保管を行っています。スキャンセンターは診療の中で発生する紙文書を電子カルテへ取り込んでいます。これらはいずれも、安全かつ適法な医療に貢献するものです。

また医師事務作業補助者は、文書作成等の業務を通して医師の作業負担を軽減するとともに、医師がより診療に専念できる環境を整えています。

輸血・再生・細胞治療センター

輸血製剤、造血幹細胞をはじめとした細胞製剤の一括管理を行っています。また、日進月歩に進歩する再生医療を安全性を担保し提供しています。



体制と運営方針

当院で使用される輸血療法や造血幹細胞、再生医療等製品などの全ての細胞製剤について当センターで中央一元管理を行っています。一元管理を行うことで細胞調製に関する高い知識や経験を得ることが可能となり、再生医療等安全性確保法をはじめとした各種法令に準拠した発展的な細胞治療の提供を可能にしています。

業務内容

輸血療法における血液製剤の厳密な管理は勿論のこと、造血幹細胞の採取や保管、再生医療等製品の発注から使用記録の管理などを総括しています。また、再生医療等製品では細胞調製—細胞培養—品質管理の一連のステップを専任の培養士が行うことで品質を担保した細胞製剤を提供しています。

光学医療診療部

最新の機器を備えた施設において、より安心・安全かつ高度な内視鏡医療提供に努め、年間7,000件におよぶ内視鏡検査・治療を行っています。



体制と運営方針

日本消化器内視鏡学会指導施設・日本呼吸器内視鏡学会認定施設として指導医の監督のもと各専門医を中心としたスタッフが、日々診療にあたっています。

さらに、日本カプセル内視鏡学会指導施設等の認定も受けており、特定機能病院として高度の医療を提供するとともに、高度の技術を修練し、専門医を育成する教育機関としての役割を有しています。

業務内容

日本でトップクラスの消化管内視鏡と気管支鏡による診療を行っており、海外からの研修も受け入れています。これまでに4,000件を超える早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の実績を有し、食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切除術(POEM)をはじめ、肥満症に対する内視鏡的胃内バルーン留置術、食道癌に対する光線力学的療法等の先進医療にも積極的に取り組んでいます。

患者総合サポートセンター

入退院支援や様々な相談支援を行い、また地域の医療機関、介護福祉施設などとの連携を図ることで、患者や家族の皆さんが安心して療養を受けられるようサポートしています。



体制と運営方針

部長、副部長、看護師長のもと、看護師、医療ソーシャルワーカーおよび事務職員など約40名のスタッフが地域連携、入退院支援および各種相談の業務にあたっています。更に、薬剤師や管理栄養士など院内多職種が協働し、外来、入院から退院後までのつぎめない支援を行う体制としています。スムーズな地域連携と強力な入退院支援により、患者さんを早期に生活に戻し、それにより本院の医療資源を適切に提供できるよう努めています。

業務内容

1. 入退院支援：入院に際して手続きや説明とともに入院前から退院リスク等の情報収集・評価を行い病棟との密接な連携により迅速な退院支援を行います。
2. 地域連携：地域において本院のもつ医療資源を効率よく提供できるよう地域との強力な連携を図ります。
3. 医療相談：医療福祉相談の他、あらゆる相談事の窓口機能を提供します。
4. 予約センター：スムーズな紹介・逆紹介のためのFAX予約業務等を行っています。

医療安全管理部

特定機能病院には高度な医療安全管理体制を実現する責務があり、患者本位の安全安心な医療の提供は本院の目標です。この目標を達成するための部署が医療安全管理部です。



体制と運営方針

医療安全管理部は病院長直属の部署であり、専従スタッフ4名（医師1名、看護師2名、薬剤師1名）を含む多職種の部員から構成されています。院内の全部署にリスクマネージャーを配置しており、部署横断的で、院内のほぼ全職種から成るユニークな部署です。特定機能病院に課せられた医療安全管理上の要件にしたがって、医療安全管理の各責任者、医療安全の委員会とともに、医療安全管理責任者（専従医師）が統括する体制です。

業務内容

医療安全管理部の業務は法令（医療法施行規則）と保険診療のルールに則り、院内規則に基づいて明確に定められています。医療安全の委員会に係る事務、医療事故等に係る記録の確認、原因究明、対策立案、患者等への説明、職員の指導、連絡調整、医療安全対策の推進、診療の状況確認、医療安全に関する職員の意識の向上、内外の情報収集と院内周知、医療安全に係る患者からの相談への対応など、多岐にわたる業務を行っています。

総合研修部

新潟大学医歯学総合病院は、新潟県の中心の病院として医療人を育成する責務があります。全ての病院職員の研修を統括するのが総合研修部です。



体制と運営方針

総合研修部は、部長（耳鼻咽喉科教授、病院長補佐）と副部長（医師）が所属しております。また、総合研修部は、医師研修センター、歯科医師研修センター、看護師研修センター、薬剤師研修センター、医療技術職研修センター、事務職員等研修センターを統括し、病院職員の研修をサポートします。

業務内容

定期的に行われるミーティングでは、各研修センターのセンター長とともに研修内容、実績のとりまとめを行います。また、医師研修センター、歯科医師研修センターを通して、医師臨床研修、歯科臨床研修、専門研修のとりまとめ、院内の調整、情報共有、協力型研修病院の調整、プログラムの見直しなどを行っています。

感染管理部

院内感染の制御と感染症の診療、抗菌薬の適正使用を中心に、病院内における感染対策全般を担っています。



体制と運営方針

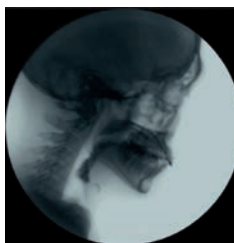
医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師を中心に構成され、毎週の感染管理部会、毎月の感染対策委員会で院内の状況把握と対策を進め、各病棟・部署における担当者（ICM）と連携し、情報の収集と周知を図っています。さらに当院はHIV感染症/AIDS診療の関東甲信越地区におけるブロック拠点病院でもあるため、ブロック内における現状把握に加え、各種会議や研修会を企画するなど、エイズ医療の水準の向上及び地域格差の是正に努めています。

業務内容

院内における各種感染症の発生状況を監視するとともに、定期的な院内の巡視により各部署における感染対策の現状や課題を把握し、対策を進めています。また、個々の症例の感染症診療に取り組むとともに、院内における抗菌薬使用の適正化を図っています。さらに、新潟医療関連感染制御コンソーシアム（CHAIN）の事務局として新潟県内医療機関との連携強化を進め、HIV感染症の診療や新型コロナウイルスの感染対策にも取り組んでいます。

摂食嚥下機能回復部

種々の疾患が原因となって「嚥む」「飲み込む」などの問題を抱えた入院患者さんの口腔ケア、歯科治療、「食べる」リハビリテーションを行っています。



体制と運営方針

摂食嚥下機能回復部は、歯科医師、歯科衛生士を中心として構成されています。加えて、患者さんの全身状態を把握し、効率的・効果的なりハビリテーションを行うためには他職種との連携が欠かせないことから、隣接する総合リハビリテーションセンターの医師、療法士、看護師と常にコミュニケーションを取り、患者さんの情報を共有しながら日々の臨床にあたっています。

業務内容

口腔内の検査、嚥下機能の簡易検査を行った後に、嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査（写真）などを行って「食べる」機能の問題点を明らかにします。検査結果に基づいて、1）治療的アプローチ（障がいを出す）、2）代償的アプローチ（残存する機能を使って食べる）、3）環境改善的アプローチ（患者さんを取り巻く環境を整備する）により、患者さんの治療を進めていきます。

顎口腔インプラント治療部

顎の関節や咀嚼筋の痛み、運動障害に対する「顎関節治療」と歯の欠損に対してインプラントを用いて機能回復を行う「口腔インプラント治療」の2部門の診療を行っています。

顎関節疾患 口腔インプラント



体制と運営方針

顎口腔インプラント治療部は、部長（兼任）1名と専任の7名の歯科医師が、口腔外科系および補綴系の診療科と連携して「顎関節治療部門」と「口腔インプラント治療部門」の2部門の診療を担当しています。両部門とも世界標準の診査・診断・治療を患者さんが受けられるよう、診療プロトコルを整備するとともに、すべての症例は初診時に検討会にかけられ、専門医が中心となって最適な治療方針を決定しています。

業務内容

顎関節治療部門では、顎関節の発育異常、外傷、炎症、腫瘍、顎関節症、歯ぎしりなどに対する治療やスポーツマウスガードの作製なども行っています。口腔インプラント治療部門では、骨増生手術からインプラント埋入手術、冠や義歯による補綴治療、メンテナンスまでの一貫した治療を行っています。また研修医教育や顎関節やインプラント治療に関する研究および世界標準の治療法を地域医療機関へ広める活動も積極的に行っています。

言語治療室

外来棟5階に位置し、口唇口蓋裂を中心とした音声言語の管理・治療を担当しています。



体制と運営方針

口唇口蓋裂の治療の目的は、自然な顔貌や噛み合わせ、そして良好な音声言語機能の獲得です。本院では医科歯科連携のもと、形成外科・口腔外科をはじめとした多くの診療科がチームとなって口唇口蓋裂の治療に取り組んでおり、その一環として、当治療室は音声言語の管理・治療を担当しています。これまでの研究成果に基づいて、形態と機能の調和を目指した、きめこまかい言語管理・治療を行っています。

業務内容

口唇口蓋裂を中心とした音声言語の管理・治療が主たる業務になりますが、口唇口蓋裂に限らず、「言葉の発達が遅い」「発音がはっきりしない」「言葉がどもる」等、小児の音声言語に関するご心配がございましたらお気軽にご相談ください。必要に応じて、形成外科や口腔外科、矯正歯科、小児歯科等の他診療科と連携して治療をすすめてまいります。

医療連携口腔管理治療部

全身麻酔下での手術、癌の放射線・化学療法、薬剤関連顎骨壊死などに伴う口腔不快症状、術後肺炎等を軽減することで、患者さんの治療中・治療後のQOL向上に貢献します。



体制と運営方針

医療連携口腔管理治療部は部長の他、4名の専従・専任歯科医師と、各診療科や衛生士部門、看護部門、患者総合サポートセンターからの協力部員を構成員として診療を行っています。がん治療や手術等の医科治療患者さんの口腔内の不快事象を軽くかつ短期間とし、主疾患の治療を完遂することを目的として①感染対策、②口腔粘膜管理、③顎骨壊死対策を三本柱として診療にあたっています。

業務内容

口腔内全体を診察し、感染巣の有無などを検索し、必要な場合は治療前に感染巣の除去を行います。それにより術後感染や、治療に伴う顎骨壊死の予防を行っています。また放射線・化学療法、造血幹細胞移植などでは高率で口腔粘膜炎が出現するため、その軽減のための粘膜保護、口腔衛生管理などを行い、不快症状がなるべく少なく、治療が完遂できるよう医科診療科と連携して診療に当たっています。

お口の健康室

歯科治療後のメンテナンス



体制と運営方針

お口の健康室は歯と歯周組織の健康を保ち、生涯を通じて健やかな口腔の機能を保つことにより「美味しく食べる」ことができるよう支援するという視点から、診療に従事するとともに、歯科衛生士養成の臨床教育の場としての役割を担っています。

業務内容

各診療室と連携し、歯科衛生士養成の臨床教育の一環として歯科治療後のメンテナンスを中心に診療を行っています。

栄養管理部

病状に合わせた食事の提供と栄養相談や治療の一助となるような栄養管理サポートを行っています。

食らくレシピ♪ ～アミノ酸製剤をおいしく楽しく～



体制と運営方針

栄養管理部は食事提供を行う「栄養管理室」と食事が食べられない方や栄養状態が悪い方への栄養管理を行う「臨床栄養支援

部門」で構成されています。「食は命の根源である」ということを心にとめ、おいしく安全な食事を提供すること、病態に合わせた食事指導や栄養相談、患者に寄り添った栄養面でのサポートができるように栄養管理の質の向上に努めています。

業務内容

入院中に食事を楽しんでいただけるよう行事食、お誕生日お祝い膳、選択メニュー等を実施しています。また肝疾患相談センターと共同で分岐鎖アミノ酸をおいしく楽しく食べるために「食らくレシピ♪」を考案しホームページで作り方を公開しております (<https://www.nuh.niigata-u.ac.jp/liv/info/494/>)。

移植医療支援センター

新潟大学医歯学総合病院における臓器提供から臓器移植医療全般を診療科・部門・職種を超えて横断的・総合的に対応する部署です。



体制と運営方針

医師・ドナーコーディネーター・レシピエント移植コーディネーター・事務員ならびに院内各部署に配置された県知事委嘱状を受けた院内コーディネーターが協働し、脳死・心停止下の多臓器提供から、脳死・心停止下献腎移植・脳死下膵腎同時移植・膵移植・生体腎移植・角膜移植といった臓器移植医療のあらゆる場面に対応できる院内体制を構築・提供しています。

業務内容

日常業務として、臓器提供マニュアルや院内コーディネーター・担当医名簿の整備更新を行う一方、定期的に院内コーディネーター会議・臓器移植医療や臓器提供に関する勉強会・シミュレーション等を開催しています。臓器提供事例発生時には外部機関（県臓器移植推進財団・日本臓器移植ネットワーク）と連携し円滑な臓器提供の実現と質の高い家族ケアの提供に努めています。

腫瘍センター

より良いがん治療を患者さんに安全にお届けすることを目標とし、病院内のがん診療を統括、サポートしています。



通院治療室

体制と運営方針

腫瘍センターは「通院治療室」「緩和ケアチーム」「がん相談支援センター」「がん登録室」の4つの部門から構成されています。当院は地域がん診療連携拠点病院であり、がんのスペシャリストであるがん

治療専門医、がん薬物療法専門医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師を各部署に配置し、患者支援に努めています。

業務内容

通院治療室は抗がん剤などの点滴治療を受ける場所です。患者さんそれぞれで抗がん剤の種類や量は異なっており、安全に最適な治療を受けられるよう、サポートします。緩和ケアチームでは専門スタッフががん患者さんの体、心の負担を取る治療を行っています。がん相談支援センターでは患者さんの気持ちに寄り添った、療養上の相談を行っています。がん登録室ではがん患者さんのデータを集計し、がん診療の質の向上に繋げています。

魚沼地域医療教育センター

平成25年に本学、新潟県、新潟県地域医療推進機構の間で締結された協定書に基づき、平成27年6月1日に魚沼基幹病院内に魚沼地域医療教育センターが設置されました。



体制と運営方針

魚沼地域は、全国に先駆けて高齢化が進んでいます。様々な疾患をもつ高齢者が多いことから、医師には専門診療能力に加えて総合診療能力が要求されます。当教育センターでは、総合内科専門医と各専門分野の指導医を特任教員として配置し、総合診療能力を養成できる臨床研修プログラムを策定しました。こうして、総合診療能力を有する高度専門医を安定的に確保することで、新潟県の地域医療に大きく貢献することが期待されます。

業務内容

約40名の特任教員が、当教育センターに配置されています。特任教員は、魚沼基幹病院勤務医と協力して以下の事業に診療を通して従事します。従事する事業は以下の通り；医学部6年生を対象とした卒前教育、総合診療能力養成を主眼とした卒後臨床研修プログラムの策定と実践、各科専攻医を対象とした多様な後期専門研修プログラムの提供、地域医療人研修の提供、研究機能の向上、および地域医療への貢献。

臨床研究推進センター

治験・臨床研究が適切に実施されるよう支援します。医薬品等の開発支援及び臨床研究者の育成等を通じて、新潟大学発の薬事承認に挑戦します。



体制と運営方針

令和4年7月に部門改編を行い、企業治験部門、研究支援部門、教育研修部門、総務広報部門となりました。企業治験を適切かつ円滑に実施すること、社会的意義のある臨床研究を支援すること、臨床研究者を育成すること等を目指しています。その他、他大学と連携し、わが国の治験や臨床研究のあり方について協議し、法規制の変化等に対応しています。

業務内容

企業治験部門：治験事務局業務、治験審査委員会の運営、CRC支援、治験薬管理等を行います。
研究支援部門：研究相談・開発相談、生物統計、モニタリング、データマネジメント等を行います。
教育研修部門：臨床研究に関するセミナー提供、研修医・大学院教育、論文作成支援等を行います。
総務広報部門：総務全般、広報、システム管理等を行います。
【HP：<https://www.ctrc.niigata-u.ac.jp/>】

ゲノム医療部：ゲノム情報管理センター

ゲノム医療の中で得られるヒトゲノム配列とその関連データについて、個人情報保護すると共に、高度なセキュリティ対応を実施したデータ管理業務を行っています。



体制と運営方針

当センターは、がんゲノム医療や遺伝医療等のヒトゲノム配列が応用される医療において、個人情報としての秘匿性が極めて高いヒトゲノム配列データについて収集・管理等の全般の業務を担います。ゲノム解析の専門家で、かつ高度な情報技術や情報科学にも精通したスタッフによって業務を行っています。医療情報部やメディカルAIセンターとも連携することで、より高度化するゲノム医療に向けた体制構築に励んでいます。

業務内容

- ・ゲノム医療を受ける患者のゲノム情報およびその関連情報の管理。
- ・学術情報ネットワーク（SINET 5）との接続に関する情報の管理。
- ・ゲノム医療部に関連する外部への情報提供体制の維持・管理。
- ・がんゲノム医療の臨床情報提供システム用サーバーについて実務管理。
- ・ゲノム情報を効率的に管理するためのシステムの開発。
- ・人工知能等の最先端の医療技術に関する研究。

ゲノム医療部：がんゲノム医療センター

がんゲノム医療拠点病院（2023年4月時点で全国に32か所）の1つとして、専門家会議（エキスパートパネル）を開催し、新潟県内のがんゲノム医療を推進しています。



体制と運営方針

当センターは、がん診療に関わる専門家から構成されるエキスパートパネルを開催し、がん遺伝子パネル検査の出検・結果の解釈・治療提案を行っています。治療提案においては、臨床研究推進センターと連携して、治験・先進医療を提案できるよう努めています。また、医学部メディカルAIセンターと連携して、患者同意の基に臨床データを管理し、がんゲノム医療の研究体制を構築しています。

業務内容

- ・がんゲノム医療に関して、診療科の支援およびコーディネートを行う。
- ・がんゲノム医療における出口戦略（治験・先進医療等）を策定する。
- ・エキスパートパネルを開催する。
- ・患者同意の基に、がんゲノム情報管理センター（C-CAT）へがんゲノム情報の登録を行う。
- ・新潟県内のがんゲノム医療連携への情報発信を行い、がんゲノム医療人材（医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、コーディネーター）を育成する。

ゲノム医療部：遺伝医療センター

遺伝医療センターは遺伝性疾患、遺伝性腫瘍などの疾患を対象とした遺伝カウンセリングと遺伝学的検査（出生前診断、発症前診断を含む）を実施しています。



体制と運営方針

遺伝医療センターでは遺伝性疾患やご家族への遺伝について心配されている方を対象に、正確な遺伝学的情報をわかりやすく説明し、相談者が自立的に意思決定できるように支援します。遺伝医療センターに所属する臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーに、診療科の専門医が加わった医療チームで診療します。遺伝医療のニーズの高まりに答えられるように、遺伝医療にかかわる人材育成を行っています。

業務内容

- ・幅広い遺伝性疾患を対象とした遺伝カウンセリング
- ・新しい出生前遺伝学的検査（NIPT）に関する遺伝カウンセリングと検査実施
- ・遺伝学的検査の実施（保険診療、自費診療）
- ・がんゲノム検査における二次的所見への対応
- ・診療科との協力体制による遺伝性腫瘍サーベイランス
- ・未診断疾患イニシアチブプロジェクト（IRUD）の推進

高度医療開発センター

本部門は、難治性疾患に対する新治療開発と歯科口腔領域の再生医療の実現のため、院内で培われた治療技術を薬事承認や自由診療に繋げる最終ステップを担います。



体制と運営方針

本部門は、ミッションオリエンテッドの部門となっております。企業が部門にいくつかのミッションを提示し、そのミッションの実現に向けてスタッフが企業と共同で事業を行っています。企業が出資し現在、部門に4人の教官と4人のスタッフを雇用しています。現在出資している企業は、ノーベルファーマ社とコージンバイオ社の2社です。ミッションは、両社と部門の教官が話し合っ決めていますが、新潟大学発のプロジェクトとして、再生医療と呼吸器難病の新治療開発が大きな柱となっています。

業務内容

以下のプロジェクトを行います。

- 1) 自己免疫性肺胞蛋白症に対するLeukine吸入療法の薬事承認
- 2) 非結核性抗酸菌症等難治性呼吸器感染症に対するLeukine吸入療法の臨床試験の実施
- 3) mTOR阻害剤（シロリムス）の新作用に関する研究会の運営
- 4) 歯槽骨顎骨再生医療の自由診療の普及
- 5) 顎骨再建の再生医療の医師主導治験の実施
- 6) 歯科再生医療の術式と材料の開発

新規医療技術等管理センター

当部署では高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等、適応外の診療行為を新規に実施する場合の審査・検証を行っています。



体制と運営方針

◆体制

センター長 富田 善彦（病院長）
高難度新規医療技術管理部門長 福地 健郎（眼科長）
未承認新規医薬品等管理部門長 若井 俊文（副病院長）
他、医師、歯科医師、薬剤師、看護師が構成員に入り、それぞれの専門的な見地から審議を行っています。

◆運営方針……医療法施行規則等の法令や当院のルールに従い、高度医療の安全な実施を支援しています。

業務内容

一般病院では治療が困難な難病、重症症例の治療は、特定機能病院である当院の使命のひとつです。症例によっては、高難度手技、未承認新規医薬品等、適応外による医療が、既存の医療よりも有効な場合があると考えられます。しかし、これらの新たな医療には同時に合併症や副作用のリスクもあるため、実施の可否を慎重に検討しなければなりません。当センターでは、各専門職種が、これらの医療を包括的に審査・検証しています。

小児がん医療センター

小児がんには多くの診療科が関わる専門性の高い治療が必要です。小児がん医療センターは、診療科横断的に、質の高い診断・治療ならびに療養環境の提供を目指します。



体制と運営方針

小児がんを専門とする小児科・小児外科医と、チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）、小児がん相談員より構成されます。CLSは医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する全国でも数少ない専門職です。乳幼児から思春期若年成人まで対応し、緩和ケアチーム、難病相談支援センター、親の会とも連携し、成長発達段階、ライフステージに合わせた「子ども・家族中心医療」を目指します。

業務内容

小児がんでは、身体や心への配慮をしつつも、高度な医学技術や総合判断が必要です。全身のあらゆる部位から発生し、様々な外科系診療科ならびに中央診療部門（集中治療など）が関わるため、成人のがん診療とは異なる専門家チーム（集学的治療）が必要です。小児がん医療センターは、抗がん剤治療や造血幹細胞移植を担当し、家族全体の心理社会的支援を含め、最適な集学的治療を提供するための舵取りの役目を果たします。

薬剤部

薬剤部の理念は、「くすり」の専門家として安心・安全な医療へ貢献することです。この理念に基づき、医薬品が適正かつ安全に使用されるように業務を行っています。



体制と運営方針

調剤室、薬品管理室、注射・製剤室、医薬品情報管理室、歯学薬剤・麻薬管理室、薬務室、試験研究室、第1・第2病棟薬剤業務室、治験薬管理室を設置しています。薬剤部内での業務に加え、薬剤部外での業務も広く行っています。購入、管理、調剤・製剤から、投薬、評価までの医薬品が関わる全ての段階で、薬剤師が医薬品の適正かつ安全な薬物療法に貢献できるように運営を行っています。

業務内容

薬の専門家として職能を十分に発揮し、有効かつ安全な薬物療法を確実に提供しよう業務を行っています。対物的な業務（調剤、処方監査、薬品管理、薬品情報、無菌調製、治験薬管理等）と対人的な業務（薬学的管理、服薬指導、副作用チェック等）を機能的に連携することで、質の高い薬剤師業務を実施しています。様々な医療チームへ参画し、薬学的視点から医薬品・医療のセーフティーマネジメントを担う役割も果たします。

看護部

看護部は、高度先進医療を担う医療チームの一員として専門性を発揮し、社会のニーズに応じた看護を提供しています。



体制と運営方針

看護師・助産師、看護補助者等約900名の看護職員が在籍し、病棟、外来、手術部、集中治療部など、様々な部署で看護を提供しています。患者さんが安心して安全な医療が受けられるよう、看護体制を整備するとともに、高度先進医療に対応できる看護師や、特定行為等、幅広い領域で活躍できる看護師を育成しています。また、未来を見据え、地域連携の推進や看護ケアの改善に取り組んでいます。

業務内容

患者さんの治療計画が安心、安全に進められるよう看護を提供しています。専門知識をいかして検査や手術等に伴う診療の補助業務と身の回りの世話をを行います。また、地域で医療を受けながら生活する方々には、専門性の高い看護師による看護相談、療養指導を行っています。多職種によるチーム医療ではコーディネーター役割を発揮し、様々な場面で患者さん自身が納得して医療に参画できるよう、意思決定に関わり支援しています。

医療技術部

2023年4月より診療支援部より医療技術部に組織名称が変更されました。なお一層、専門性を有した医療技術を提供することでチーム医療の一翼を担っていきます。






体制と運営方針

医療技術部は各部門の組織化と一元管理を目的に設置され、6部門9職種より構成され現在約200名の部員が在籍しています。臨床検査部門、放射線部門、リハビリ部門、臨床工学部門、歯科技工部門、歯科衛生部門の6部門が、それぞれ診療科や中央診療施設で業務を行っています。

先進的で高度な医療を提供する大学病院において、医療技術部の理念である患者さん一人ひとりを尊重し安全で質の高い医療技術を提供できるように取り組んでおります。

業務内容

6部門では医療技術の提供手段は違いますが、各部門で目標を持ち、患者さんの近くで安全で質の高い医療技術を提供しています。また、新人教育から職種間の相互理解を図り、多職種での連携を強固にする研修会を多数開催し、医療技術の新たなサービスの向上に努めています。さらに、多数の医療技術職の学生実習を多数受けることで医療人の育成にも力を入れています。我々は患者様のためになる医療に挑戦し続けている部門です。

	西病棟	病棟	東病棟	外来診療棟	
12階	<ul style="list-style-type: none"> ● 食堂 ● ラウンジ ● 小会議室 ● 特別会議室 		<ul style="list-style-type: none"> ● 大会議室 ● 家族控室 ● 海の見える図書館 	   ヘリポート <ul style="list-style-type: none"> ● 歯科 ● ドクターヘリ事務室 ● 医療安全管理部・感染管理部 <ul style="list-style-type: none"> ● 歯科 <ul style="list-style-type: none"> ● 小児科 ● 産科婦人科 ● 泌尿器科 ● 第1検討会室 <ul style="list-style-type: none"> ● 小児外科 ● 麻酔科 ● 皮膚科 <ul style="list-style-type: none"> ● 内科 ● 内科系処置室 ● 検査部(中央採血室・採尿室・生理検査室) ● 栄養相談室 <ul style="list-style-type: none"> ● 形成・美容外科 ● 脳神経外科 ● 乳腺・内分泌外科 ● 呼吸器外科 ● 放射線治療科 <ul style="list-style-type: none"> ● 整形外科 ● 消化器外科 ● 心臓血管外科 ● 眼科 ● 放射線診断科 <ul style="list-style-type: none"> ● 耳鼻咽喉・頭頸部外科 ● エントランス・待合ホール ● 患者総合サポートセンター ● 精神科 ● 病院事務部(医事課) <ul style="list-style-type: none"> ● 感染症診察室 ● 相談室 ● 医療相談室 	
11階 ↓ 8階	<ul style="list-style-type: none"> ● 病室 		<ul style="list-style-type: none"> ● 病室 		
7階	<ul style="list-style-type: none"> ● 病室 		<ul style="list-style-type: none"> ● 病室 		
6階	<ul style="list-style-type: none"> ● 病室 ● 院内学級(あさひ学級) 		<ul style="list-style-type: none"> ● 病室 		
5階	<ul style="list-style-type: none"> ● 病室 ● 総合周産期母子医療センター 		<ul style="list-style-type: none"> ● 病室 		
4階	<ul style="list-style-type: none"> ● 病室 		<ul style="list-style-type: none"> ● 病室 ● 移植医療支援センター 		
3階	<ul style="list-style-type: none"> ● 看護職キャリア開発コアセンター ● 医療情報部(電算機室) ● 第2~第6検討会室 		<ul style="list-style-type: none"> ● 病室 ● 造血・免疫細胞療法センター(無菌室) 		
2階	<ul style="list-style-type: none"> ● 光学医療診療部(内視鏡室) ● 血液浄化療法部 ● 総合研修部 		<ul style="list-style-type: none"> ● 総合リハビリテーションセンター ● 中央エコー室 ● 輸血・再生・細胞治療センター 		
1階	<ul style="list-style-type: none"> ● 病棟玄関 ● 栄養管理室 ● 防災センター 		<ul style="list-style-type: none"> ● 薬剤部 ● 売店 ● 理容室 ● ATM 		
B1階 (エントランス階)	<ul style="list-style-type: none"> ● 物流センター ● 入院病歴室 		<ul style="list-style-type: none"> ● 物流センター ● 薬剤部 ● 病理解剖室 ● 霊安室 		
	西病棟	病棟	東病棟		外来診療棟

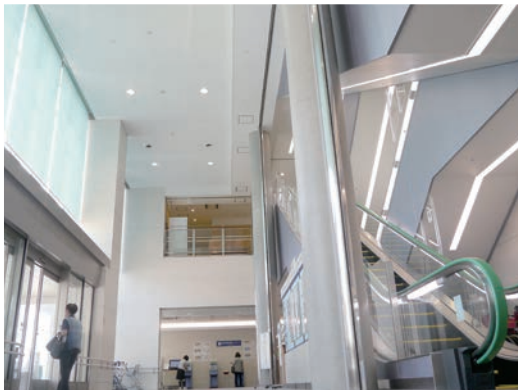
※今後、病床再編に伴い、変更となる可能性があります。



中央診療棟

西診療棟

総合研究棟



12階

11階
8階

7階

6階

5階

4階

3階

2階

1階

B1階
(エントランス階)

● 高次救命災害治療センター・ICU
● 手術部
● 手術部 ● 物流センター(滅菌材料部門)
● 放射線部(一般X線撮影室・CT室) ● 救急外来
● 放射線部 (放射線治療室・MRI検査室・ アイントープ外来)

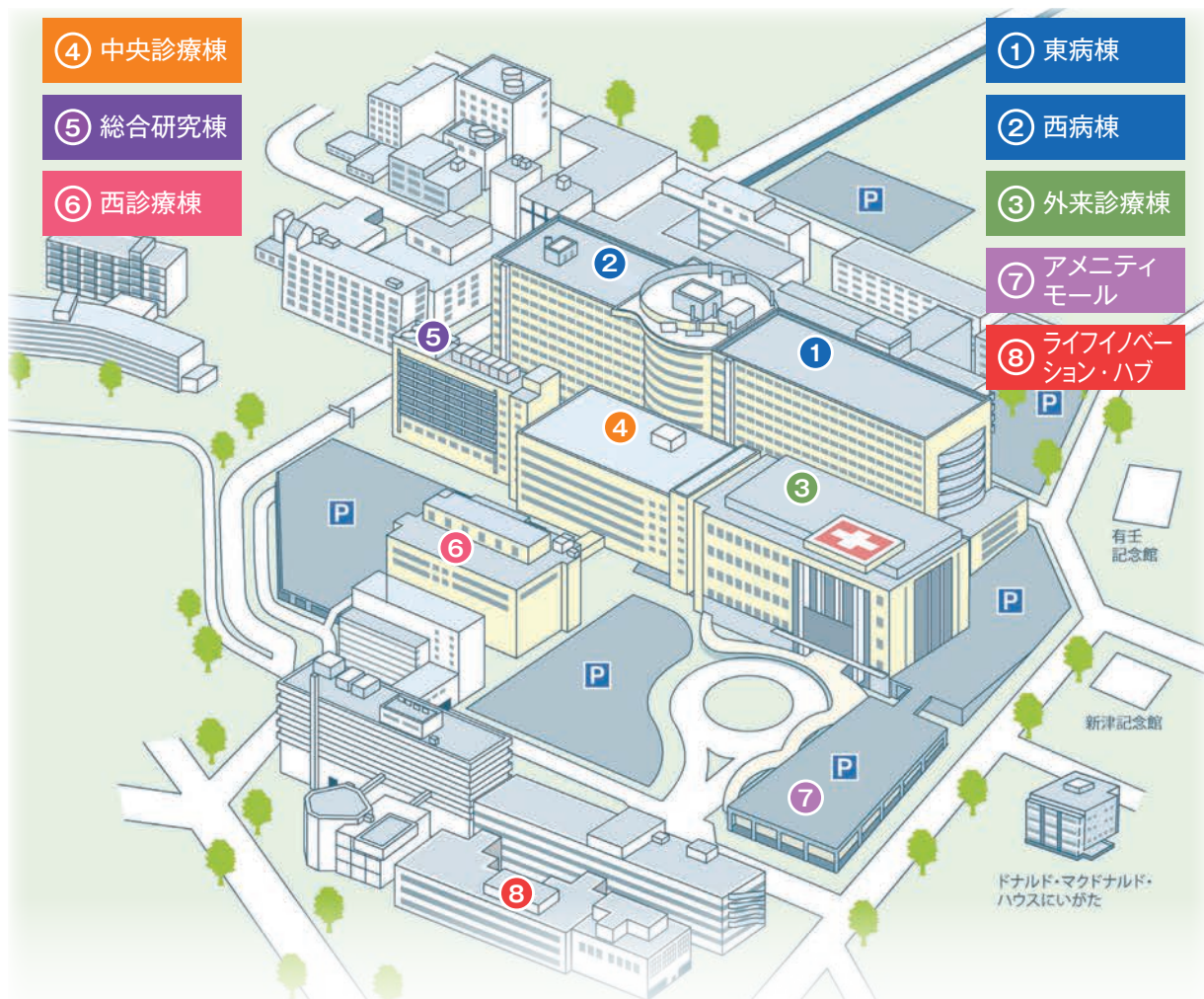
● 第1～第3会議室 ● 腫瘍センター(緩和ケア室)
● 検査部 (微生物検査室・生物検査室・ 遺伝子検査室・特殊分析室) ● 病理部
● 臨床研究推進センター (実施支援部門) ● 腫瘍センター(通院治療室) ● 放射線部(血管撮影室) ● 遺伝カウンセリング室
● 外来カルテ室

● 高度医療開発センター ● 魚沼地域医療教育センター(事務室)
● 医療情報部
● 病院事務部 (基礎・臨床研究支援課)
● 病院事務部 (総務課・経営企画課・管理運営課) ● 看護部管理室 ● 病院長室

中央診療棟

西診療棟

総合研究棟



土地面積 / **77,225m²**
Area of Campus

建物面積 / 建面積: **29,578m²**
Area of Buildings / Floor Area

延面積: **119,966m²**
Total Area

(2023年5月1日)

名称 Divisions	構造 Type of Structure	建築面積 (m ²) Area of Buildings	建築延面積 (m ²) Area	竣工年度 Completion Year
西病棟 West Ward	S-12-2	4,651	29,212	平成12年度 2000
東病棟 East Ward			23,027	平成17年度 2005
中央診療棟 Central Wing	R-5-1	2,468	11,890	平成21年度 (令和3年度改修) 2009 (2021)
西診療棟 West Wing	R-5	2,113	7,809	昭和60年度 (平成23年度改修) 1985 (2011)
外来診療棟 Outpatient Wing	R-6-1	4,132	21,269	平成24年度 2012
総合研究棟 Administration Wing	R-8-1	1,396	1,869	昭和52年度 (平成20年度改修) 1977 (2008)
ライフイノベーション・ハブ (F棟) Lifeinnovation Hub	R-3	1,098	2,119	昭和48年度 (令和元年度改修) 1973 (2019)
ライフイノベーション・ハブ (H棟) Lifeinnovation Hub	S-5	526	863	平成9年度 (令和元年度改修) 1997 (2019)
アメニティモール Convenience store, Restaurant, Coffee shop, etc	S-2	1,854	1,461	平成25年度 2013
新潟医療人育成センター Niigata Medical Professionals Development Center	SR-4	621	1,962	平成26年度 2014
中央機械室 Central Power Station	R-2	1,921	2,434	昭和51年度 1976
看護師宿舎 Dormitory for Nurses	R-4	870	3,313	昭和42年度 (平成5年度改修) 1967 (1993)
第2駐車場 Multi-level car parking tower 2	R-1	2,844	2,794	平成17年度 2005
第5駐車場 Multi-level car parking tower 5	R-2	3,921	7,847	平成26年度 2014
その他 Other		856	1,243	
ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた Ronald McDonald House Niigata	R-4	307	854	令和4年度 2022
合計 Total		29,578	119,966	



新潟大学医歯学総合病院平面図





新潟大学医歯学総合病院

〒951-8520 新潟県新潟市中央区旭町通一番町754番地

TEL.代表 025-223-6161 URL.<https://www.nuh.niigata-u.ac.jp/>

MAP



交通

- 新潟駅(万代口バスターミナル)からバス利用 — ◆『新潟大学病院』バス停で下車(外来診療棟前ロータリー着)
4番のりばから出発する【新大病院線】乗車
※4番のりばから出発する【新大病院線】以外では本院にアクセスできません。
- ◆『市役所前』バス停で下車(本院まで徒歩3分)
0、1、5、6番のりばから出発する市内バス及び8番のりばから出発する【鳥屋野線】乗車
※8番のりばから出発する【鳥屋野線】以外では本院にアクセスできません。
- 新潟駅からタクシー利用 ————— 新潟駅万代口からタクシーで約10分
- 白山駅からタクシー利用 ————— 白山駅からタクシーで約5分(徒歩の場合は約15分)